

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2023/24 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

- ・中国等で下方修正されたものの、ロシア、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。

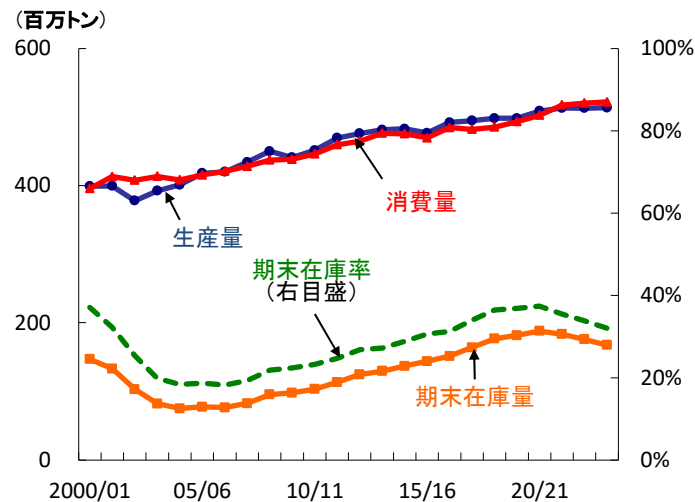
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・ウクライナ等で下方修正されたものの、インド、EU 等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

- ・EU 等で下方修正されたものの、ウクライナ、ロシア、カナダ、豪州等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料:USDA「PS&D」(2024. 1. 12) をもとに農林水産省にて作成

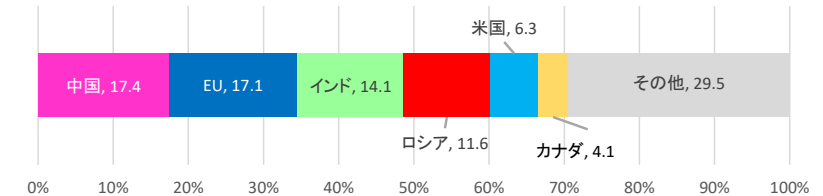
◎世界の小麦需給

（単位：百万トン）

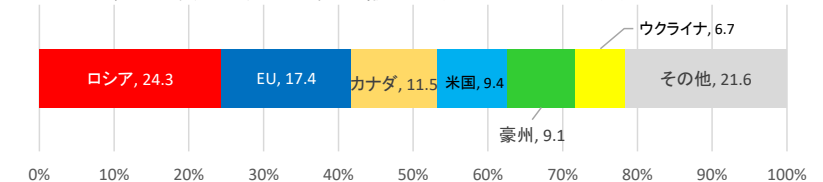
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	780.1	789.2	784.9	1.9	▲ 0.5
消 費 量	791.2	790.9	796.4	1.8	0.7
うち飼料用	160.2	153.7	161.1	2.2	4.8
輸 出 量	202.8	220.2	209.5	2.3	▲ 4.8
輸 入 量	199.9	211.5	209.2	2.4	▲ 1.1
期末在庫量	273.3	271.6	260.0	1.8	▲ 4.2
期末在庫率	34.5%	34.3%	32.6%	0.2	▲ 1.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 January 2024)

○ 2023/24年度の世界の小麦の生産量(784.9百万トン) (単位：%)



○ 2023/24年度の世界の小麦の輸出量(209.5百万トン) (単位：%)



○ 2023/24年度の世界の小麦の輸入量(209.2百万トン) (単位：%)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 > 2024/25 年度の冬小麦の播種面積は前年度比で 6.2%の減少

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 49.3 百万トンと、前年度に比べ 9.8%増、過去 5 年平均(48.6 百万トン)に比べ 1.4%増となる見込み。

USDA「Crop Production 2023 Summary」(2024.1.12)によれば、冬小麦、春小麦及びデュラム小麦の生産量は、いずれも前月予測からの変更はなく、それぞれ 34.0 百万トン(前年度比 13.1%増)、13.7 百万トン(同 4.6%増) 及び 1.6 百万トン(7.3%減)の見込み。

同「Winter Wheat and Canola Seedings」(2024.1.12)によれば、米国の 2024/25 年度の冬小麦播種面積は、小麦の市場価格が高く播種面積が増加した 2023/24 年度(14.85 百万ヘクタール)に比べ、市場価格の低下を受け 13.93 百万ヘクタールと 6.2%減少したものの、2022/23 年度に比べ 3.4%増加した。

州別作付面積では、主要生産州のカンザス州、テキサス州及びオクラホマ州で、前年度に比べそれぞれ 7%減、8%減、5%減となった。品種別では、ハード・レッド・ウインター(HRW)が 9.71 百万ヘクタールと前年度に比べ 5%減少、ソフト・レッド・ウインター(SRW)が 2.78 百万ヘクタールで同 13%減少。

冬小麦の生育状況は、一部で干ばつ状況であるものの、降雨と降雪があり良好であった。干ばつモニターによれば、2024 年 1 月 9 日時点で冬小麦播種面積の 33%が干ばつであったものの、2023 年 10 月のピーク時の 49%から縮小した。作柄評価である「良い」から「非常に良い」の割合は、11 月 26 日から 12 月末にかけて、オクラホマ州で 53%から 67%に、カンザス州で 32%から 43%に増加した。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 19.7 百万トンと、前年度に比べ 4.5%減少し、1972/73 年度以降で最低の見込み。また、2023/24 年度のうち 2023 年 6 月～11 月の輸出量は、ロシアやウクライナからの予想を上回る小麦供給量や、国際市場で価格競争力が乏しいことから、8.7 百万トンと、前年度同期(11.4 百万トン)を 23.9%下回っている。

米国産の輸出価格(FOB)は、2024/25 年度の前見通しの改善と海外需要の低迷を受け、1 月 10 日時点で 285 ドル/トンと前月より 9 ドル/トン低下したものの、主要輸出 6 か国(米国のほか、ロシア、EU、カナダ、豪州、アルゼンチン)では、カナダ(315 ドル/トン)、豪州(303 ドル/トン)に続き高い水準。

2023/24 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.3 百万トン下方修正され、17.6 百万トンとなる見込み。期末在庫量は 2017/18 年度から低下傾向となったが、2023/24 年度は前年度を 13.7%上回る見込み。

小麦－米国（冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年6月～24年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	44.8	44.9	49.3	-	9.8
消費量	30.4	30.4	31.4	▲ 0.0	3.3
うち飼料用	2.4	2.1	3.3	-	56.5
輸出量	21.7	20.7	19.7	-	▲ 4.5
輸入量	2.6	3.3	4.0	-	19.0
期末在庫量	18.4	15.5	17.6	▲ 0.3	13.7
期末在庫率	35.3%	30.4%	34.5%	▲ 0.6	4.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	15.03	14.36	15.08	-	5.0
単収(t/ha)	2.98	3.13	3.27	-	4.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(12 January 2024)

図 米国の冬小麦の播種面積の推移

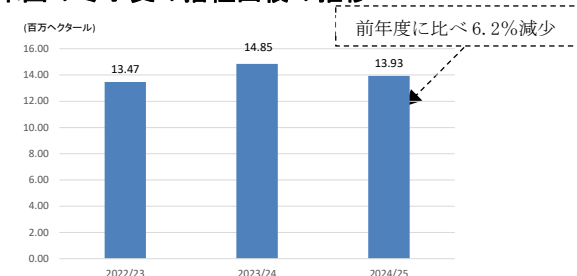


表 2024/25 年度の銘柄別播種面積

銘柄	HRW	対前年度 増減	SRW	対前年度 増減	WW	対前年度 増減
播種面積	9.71	▲5%	2.78	▲13%	1.43	▲5%

資料：USDA「Winter Wheat and Canola Seedings」(2024.1.12)

図 米国の冬小麦生産地(緑の部分の生産量が多い)



資料：USDA「Crop Production Maps」

＜ カナダ ＞ 2024/25 年度の生産量は 33.3 百万トンの見込み(AAFC)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2024.1.22)によれば、2023/24 年度の小麦全体の生産量は、前月予測からの変更はなく、32.0 百万トンと、前年度に比べ、6.9%減少するものの、過去 5 年平均に比べ 1.6%増加の見込み。

種類別の生産量は、普通小麦は収穫面積が増加したものの、干ばつによる単収の低下を受け 27.9 百万トンと前年度比で 2.2%減少となるも、5 年平均比では 6.5%増加。デュラム小麦は、平原西部の干ばつによる収穫面積の減少と単収の低下を受け 4.0 百万トンと前年度比 30.1%減、5 年平均比 22.7%減の見込み。

品質は、12 月 20 日時点のサンプル調査の結果、普通小麦は非常に良好で、サンプル数の 67%が 1 等、30%が 2 等に格付けされ、平均タンパク質含有量は 13.8%と過去の平均(13.7%)をわずかに上回った。また、デュラム小麦も非常に良好で、サンプル数の 51%が 1 等、31%が 2 等に格付けされ、平均タンパク質含有量は 14.9%と過去平均(14.1%)を上回った。

2024/25 年度の小麦全体の生産量は、例年並みの単収と仮定すると、作付面積が 1.9%減少するものの 33.3 百万トンと、2023/24 年度に比べ 4.2%増加する見込み。種類別の生産量は、普通小麦は世界的に潤沢な供給と価格低下による収益の低下を受け作付面積が減少し、27.9 百万トンと前年度に比べ 0.2 %減少する一方、デュラム小麦は作付面積が増加し 5.4 百万トンと、同 34.4%増加する見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 23.2 百万トンと、生産量の減少を受け前年度比 9.6%減の見込み。種類別の輸出量は、普通小麦は前月予測からの変更はなく 20.0 百万トンと、前年度に比べ 3.0%減少。デュラム小麦は前月予測からの変更はなく 3.2 百万トンと、生産量減少による輸出余力低下とトルコとの競合の強まり等を受け前年度に比べ 36.7%の減少。

なお、2023 年 8 月から 11 月までの輸出量は、普通小麦が 6.9 百万トンと前年度同期比 10%増加し、デュラム小麦は 1.0 百万トンと前年度同期に比べ 38%の減少となった。また、同期間の輸出先国は、前年度同期に比べ、普通小麦はインドネシア(48%増)、米国(58%増)で増加も、中国(31%減)で減少した。デュラム小麦はイタリア(75%減)、米国(24%減)で減少した。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、11 月の輸出量は、普通小麦が 197.9 万トン、デュラム小麦が 31.3 万トン。主な輸出先国は、普通小麦が中国(23.1%)、インドネシア(11.3%)、コロンビア(9.3%)の順。デュラム小麦はアルジェリア(27.5%)、モロッコ(26.2%)、イタリア(15.0%)の順。

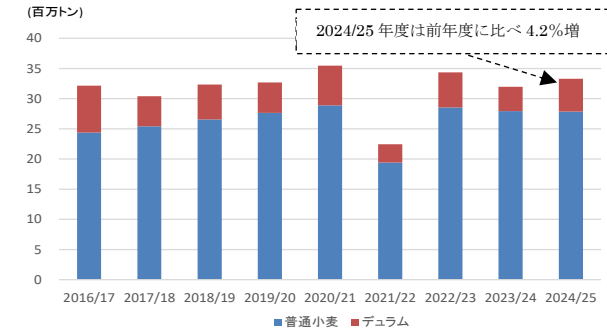
小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年8月～24年7月)		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	22.4	34.3	32.0 (32.0)	-	▲ 7.0
消 費 量	10.2	9.3	8.7 (8.6)	-	▲ 6.7
うち飼料用	5.2	4.2	3.5 (4.1)	-	▲ 16.1
輸 出 量	15.1	25.6	24.0 (23.2)	0.5	▲ 6.2
輸 入 量	0.6	0.6	0.6 (0.1)	-	9.1
期末在庫量	3.7	3.6	3.5 (4.0)	▲ 0.5	▲ 3.8
期末在庫率	14.5%	10.4%	10.7% (12.4%)	▲ 1.7	0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.20	10.08	10.68 (10.68)	-	6.0
単収(t/ha)	2.44	3.41	2.99 (2.99)	-	▲ 12.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2024)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(22 January 2024)

図 カナダ産普通小麦とデュラム小麦の生産量の推移



資料：AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2024.1.22)のデータを基に農林水産省で作成

図 カナダ産普通小麦の輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2023年11月)			2022/23年度 (2022年8月～2023年7月)			2021/22年度 (2021年8月～2022年7月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	45.7	23.1	中国	296.8	15.1	日本	159.2	13.8
インドネシア	22.3	11.3	インドネシア	213.8	10.9	インドネシア	128.1	11.1
コロンビア	18.4	9.3	日本	167.3	8.5	コロンビア	102.4	8.9
バングラデシュ	18.1	9.1	ペルー	148.3	7.5	ペルー	79.2	6.9
メキシコ	9.4	4.7	バングラデシュ	144.4	7.3	中国	69.4	6.0
日本	9.2	4.6	コロンビア	109.9	5.6	エクアドル	65.8	5.7
その他	74.8	37.8	その他	886.1	45.1	その他	548.0	47.6
計	197.9	100.0	計	1,966.6	100.0	計	1,152.1	100.0

資料：「Canadian Grain Commission」のデータを基に農林水産省で作成

＜ 豪州 ＞2023/24 年度の輸出量は、0.5 百万トン上方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、25.5 百万トンの見込み。史上最高であった前年度に比べ、単収の低下と収穫面積の減少から、2023/24 年度の実生産量は 37.1%減少するものの、10 年平均(26.5 百万トン)に比べ 3.7%の減少に留まり、ほぼ平年並みの見込み。なお、エルニーニョ現象の影響は、播種以降に乾燥天候が生じたものの、播種時に十分な土壌水分が保たれていたことや、前年 10 月以降の成熟に適した降雨を受け当初予測より軽減された。

また、豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report」(2023.12.5)によれば、2023/24 年度の実生産量は、25.5 百万トンと史上最高の前年度から 38.0%減少するものの、過去 10 年平均比(26.5 百万トン)で 3.9%減に留まる見込み。主要生産州の実生産量は、ウェスタンオーストラリア(WA)州で、同州北部での乾燥の継続を受け単収が低下し 8.2 百万トンと、前年度比で 44%減少するものの、過去 10 年平均比で 17%の減少。ニューサウスウェールズ(NSW)州で、6.6 百万トンと前年度比で 38%減少するものの、過去 10 年平均比で 11%の減少となる見込み。同州では北部で降雨量不足等から生産量が低下する一方、南部で生育初期の十分な土壌水分と成熟期の降雨から生産量は平均から平均以上の見込み。

2023/24 年度の収穫状況は、現地情報会社によれば、収穫が終盤となり、各州の 1 月 4 日時点の収穫進捗率は、WA 州 100%(前年度同期 63%)、クイーンズランド(QLD)州 100%(同 99%)、NSW 州 98%(同 79%)、サウスオーストラリア(SA)州 95%(同 69%)、ヴィクトリア州(VIC 州)95%(同 45%)となった。WA 州では、早めに播種を行った地域が多く、予定より早く収穫が完了。SA 州では 12 月に降雨があり収穫が遅れ、VIC 州とともに 2024 年 1 月まで収穫が続く見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の実輸出量は、これまでの輸出実績が比較的好調であることに加え、2023/24 年度の実小麦の品質が予想より良好であることから、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、19.0 百万トンの見込み。過去最高の前年度の実輸出量に比べ、乾燥天候による生産量の減少から、40.3%減となるものの、10 年平均(18.9 百万トン)に比べ 0.5%増とほぼ平年並みの見込み。

現地情報会社によれば、2023/24 年度(2023 年 10 月～2024 年 9 月)の 11 月の実輸出量は 117.6 万トンと前年度に比べ 31.6%の減少。輸出先国は、インドネシア(18.5%)、中国(15.8%)、ベトナム(10.5%) の順で、中国のシェアは前月の 19.0%から 15.8%に低下。現在、豪州産は米国産に比べ割高のため、大量に豪州産小麦を輸入していた中国は相対的に安価な米国産の輸入にシフトする傾向もみられる。

小麦－豪州(冬小麦を主に栽培)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年10月～24年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	36.2	40.6	25.5 (24.4)	-	▲ 37.1	
消費量	8.5	8.0	7.5 (7.6)	-	▲ 6.3	
うち飼料用	5.0	4.5	4.0 (3.9)	-	▲ 11.1	
輸 出 量	27.5	31.8	19.0 (18.0)	0.5	▲ 40.3	
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (0.3)	-	-	
期末在庫量	3.5	4.4	3.6 (2.2)	▲ 0.5	▲ 18.3	
期末在庫率	9.6%	11.0%	13.5% (8.7%)	▲ 2.2	2.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	12.73	13.05	12.50 (12.60)	-	▲ 4.2	
単収(t/ha)	2.85	3.11	2.04 (1.94)	-	▲ 34.4	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2024)
IGC 「Grain Market Report」(16 November 2023)

写真 収穫が進む小麦圃場(ウェスタンオーストラリア州)



写真：Profarmer Australia

表 豪州の小麦輸出量と輸出先国

2023年11月			2023年10月～2023年11月			2022年10月～2023年9月		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
インドネシア	21.7	18.5	中国	45.2	17.5	中国	756.7	23.8
中国	18.6	15.8	インドネシア	42.6	16.5	インドネシア	504.2	15.8
ベトナム	12.4	10.5	フィリピン	30.3	11.7	フィリピン	308.2	9.7
フィリピン	10.8	9.2	ベトナム	20.0	7.7	ベトナム	285.0	9.0
イエメン	10.8	9.2	日本	10.6	4.1	韓国	270.3	8.5
韓国	9.5	8.1	イエメン	7.6	2.9	タイ	200.8	6.3
その他	33.8	28.7	その他	102.5	39.6	その他	859.1	27.0
計	117.6	100.0	計	258.8	100.0	計	3,184.3	100.0

資料：「Australian Crop Forecasters S&D Export Report」 (2024.1)を
もとに農林水産省で作成

< EU27 > 2023/24 年度の生産量は過去5年平均を上回る 133.8 百万トン

【生育・生産状況】欧州委員会(2023.12.21)によれば、2023/24 年度の実生産量は、前月予測から 0.3 百万トン上方修正され 133.8 百万トンと、前年度比で 0.4%減少も、過去5年平均比で 0.9%増加する見込み。

小麦全体のうち普通小麦は、前月予測に比べ 0.1 百万トン上方修正され 126.7 百万トンと、前年度比で 0.1%減少も、5年平均比で 1.6%増加。また、デュラム小麦は、0.1 百万トン上方修正され 7.1 百万トンと、前年度比で 6.3%減少し、5年平均比でも 10.2%減少見込み。デュラム小麦の実生産量は、2016/17 年度に 9.7 百万トンに達した後、2021/22 年度に 8.2 百万トンに一時回復したものの減少傾向にある。

2024/25 年度の普通小麦の播種は、フランス北部、ベネルクス三国及びドイツ西部では、降雨や降雪の影響を受けて妨げられ、播種面積は播種予定面積を下回り、春穀物への切替えが予想されている。特に、フランスでは播種予定面積の 10%が未播種となっている。冬小麦の生育状況は、11 月末から 12 月初旬にかけ、ヨーロッパの大部分で気温が急激に低下したため、ドイツ北部、デンマーク及びポーランド北部では霜害を受けたとみられる。スペイン地中海沿岸とイタリア南部では降雨不足に見舞われているものの、東欧地域では干ばつ状況が緩和され作物への影響はほぼなかった。

【貿易情報・その他】USDA によれば、1 月 10 日時点の輸出価格(フランス産 1 等、FOB)は、ロシア産との厳しい競合により前月から 5 ドル/トン低下し、ロシア産の小麦輸出価格と同じ 245 ドル/トンとなった。EU 産及びロシア産価格は、ともに主要輸出 6 개국(米国の項を参照)のうちで最低の水準となった。

2023/24 年度の輸出量は、ロシア等の黒海からの輸出と競合し輸出が低調となったため、前月予測から 1.0 百万トン下方修正され 36.5 百万トンとなるものの、前年度に比べ 4.0%増加。また、輸入量はウクライナからの輸入が堅調なため、前月予測から 2.5 百万トン上方修正され 11.0 百万トンと、前年度を 9.1%下回るものの、過去5年平均の 6.7 百万トンを上回る。

欧州委員会によれば、10 月の輸出量は普通小麦が 299.4 万トン(5年平均比 14.2%増)、デュラム小麦は 3.5 万トン(同 50.0%減)。輸出先国は普通小麦がエジプト(19.0%)、インドネシア(10.7%)、アルジェリア(10.3%)の順で、アフリカ諸国向けが多いが、10 月は特にエジプト向けが増加した。デュラム小麦はサウジアラビア(23.4%)、モロッコ(21.8%)、コートジボワール(18.0%)の順。なお、EU は 2022/23 年度にカナダに次ぎ世界 2 位のデュラム小麦の輸出シェアを占めたが、2023/24 年度のうち 2023 年 7 月～10 月の輸出量は 13.2 万トンと、生産量の減少から 5 年平均に比べ 50.7%の減少となっている。

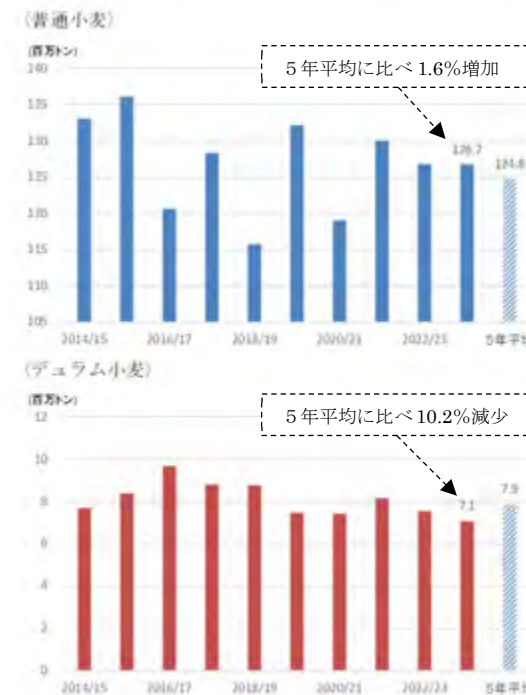
小麦－EU27 (冬小麦を主に栽培)

(単位: 百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年7月～24年6月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	138.2	134.2	134.3 (133.2)	-	0.1	
消 費 量	108.3	108.0	110.0 (109.2)	1.0	1.9	
うち飼料用	45.0	44.0	45.5 (44.7)	1.0	3.4	
輸 出 量	31.9	35.1	36.5 (34.8)	▲ 1.0	4.0	
輸 入 量	4.6	12.1	11.0 (7.7)	2.5	▲ 9.1	
期末在庫量	13.3	16.5	15.3 (15.3)	2.5	▲ 7.3	
期末在庫率	9.5%	11.5%	10.5% (10.7%)	1.7	▲ 1.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	24.29	24.38	24.22 (23.96)	-	▲ 0.7	
単収(t/ha)	5.69	5.50	5.55 (5.56)	-	0.9	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2024)
IGC 「Grain Market Report」(16 November 2023)

図 EUの普通小麦、デュラム小麦別生産量の推移



資料: EU 委員会「EU Crops Market Observatory」(2023.12.21)をもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 2023 年 1 月から 11 月までの輸入量は前年に比べ 20.2%増加

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、中国国家统计局の生産量データの公表を受け前月予測から 0.4 百万トン下方修正され、136.6 百万トン。史上最高の前年度に比べ、収穫面積は増加したものの単収の低下から、生産量は 0.8%減少したものの、過去 5 年平均の 134.8 百万トンを上回る。

なお、中国国家统计局「2023 年糧食生産量データ」(2023.12.11)によれば、2023 年の小麦生産量は 136.6 百万トンで、収穫期の降雨の影響を受け単収が低下し、前年度に比べ 0.8%減少した。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2023 年 11 月号」(2023.12.20)によれば、2024/25 年度の冬小麦の生育状況は、主要生産地域で成長に適した天候に恵まれ、北部の大部分の土壌水分は適切であった。中国国家気象センター「中国気象農業報道」(2024.1.4)によれば、12 月末までの冬小麦の生育段階は、河北省や山西省では休眠期、河南省、安徽省等では分けつ期に達し、湖北省、貴州等で三葉期に入っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の消費量のうち飼料用消費量は、2023 年 5 月の降雨被害による品質低下に伴う飼料用グレードの増加を受け、飼料メーカーが、低品質小麦と発芽小麦の配合率を増加させるとみられることから、37.0 百万トンと前年度に比べ 12.1%増加する見込み。

2023/24 年度(2023 年 7 月～24 年 6 月)の輸入量は、前月予測からの変更はなく 12.5 百万トンの見込み。前年度に比べ 5.9%減少するものの、中国は 2 年連続の世界第 1 位の小麦輸入国となっている。なお、用途別では、中国国内の飼料用小麦比率の増加を受け、不足する食用に米国産等の製粉用小麦が輸入された。

同「中国農産品供需形勢分析月報」によれば、2023 年 1 月から 10 月の累計では、国際小麦価格が中国産の国内価格に比べ相対的に低いことや、国内市場での需要が堅調であることから、中国の小麦及び小麦製品の輸入量は前年同期間に比べ増加した。

中国税関統計によれば、2023 年 1 月から 11 月までの輸入量合計は 1,149.3 万トンで前年に比べ 20.2%増加した。同期間の輸入先国のシェアは、豪州が 59.1%(前年同期 61.2%)、カナダが 19.1%(同 14.9%)、米国 7.8%(同 6.4%)、フランスが 7.2%(同 16.5%)の順で、前年に比べカナダ及び米国のシェアが増加した一方、豪州及びフランスのシェアが低下した。

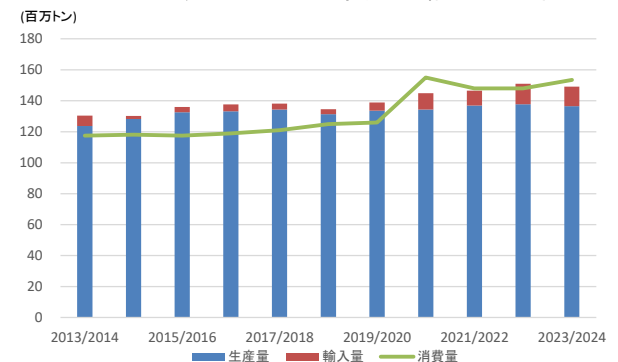
なお、同「中国農産品供需形勢分析月報」によれば、とうもろこし価格の下落で小麦の飼料用需要は減少するものの、元旦や春節により小麦粉の需要が回復するとみられること、供給面では製粉企業の在庫が十分なことや小麦が大量に輸入されていることから、国内価格は安定している。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23 年 7 月～24 年 6 月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	137.0	137.7	136.6 (136.5)	▲ 0.4	▲ 0.8
消 費 量	148.0	148.0	153.5 (149.5)	-	3.7
うち飼料用	35.0	33.0	37.0 (32.0)	-	12.1
輸 出 量	0.9	1.0	0.9 (1.2)	-	▲ 5.3
輸 入 量	9.6	13.3	12.5 (11.7)	-	▲ 5.9
期末在庫量	136.8	138.8	133.5 (137.9)	▲ 0.4	▲ 3.8
期末在庫率	91.9%	93.2%	86.5% (91.6%)	▲ 0.3	▲ 6.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.57	23.52	23.63 (23.70)	▲ 0.07	0.5
単収(t/ha)	5.81	5.86	5.78 (5.76)	-	▲ 1.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2024)
IGC 「Grain Market Report」(16 November 2023)

図 中国の小麦生産量、消費量、輸入量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024. 1. 12)をもとに農林水産省で作成

図 中国の小麦輸入量及び輸入先国

2023年11月			2023年1月～2023年11月		
国 名	輸入量	シェア	国 名	輸入量	シェア
豪州	27.8	41.9	豪州	678.7	59.1
カナダ	19.4	29.2	カナダ	219.9	19.1
米国	11.9	17.9	米国	89.5	7.8
カザフスタン	2.8	4.2	フランス	82.3	7.2
ロシア	4.0	6.0	カザフスタン	49.1	4.3
その他	0.5	0.8	その他	29.8	2.6
計	66.4	100.0	計	1,149.3	100.0

資料：中国農業農村部資料をもとに農林水産省で作成

＜ ロシア ＞ 2023/24 年度の輸出量は史上最高でブラジル等への輸出も増加

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量(クリミア地域分を含まず)は、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、91.0 百万トンの見込み。史上最高であった前年度(92.0 百万トン)に比べ、1.1%減少するものの、過去 5 年平均(79.6 百万トン)を 14.4%上回り史上 2 位となる見込み。

種類別の生産量は、冬小麦は収穫面積が増加したものの、単収が低下したことから、前月予測に比べ 0.5 百万トン下方修正され 64.0 百万トン。春小麦は乾燥天候により収穫面積が減少したものの、単収は当初の予想ほど乾燥天候の影響を受けずに上昇し、1.5 百万トン上方修正され 27.0 百万トンの見込み。

ロシア農業省の速報値によれば、12 月 26 日時点の 2023/24 年度の実生産量(品質調整前重量)は、92.8 百万トンと前年度(104.2 百万トン)を 11.0%下回るものの、過去 5 年平均を 12.4%上回る見込み。

2024/25 年度の冬小麦の播種は終了し、播種面積は前年度同期(17.72 百万ヘクタール)を上回る 18.60 百万ヘクタールに達した。ロシア気象センターによれば、2024/25 年度の冬穀物の越冬状況は、ロシアヨーロッパ南部で概ね並み、ウラル連邦管区等のロシアアジア部では概ね良好となっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は好調な輸出ペースを受け、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 51.0 百万トンと、これまで史上最高であった前年度(47.5 百万トン)を更に 7.4%上回る見込み。同年度は、特にブラジルやメキシコへの輸出が好調で、輸送距離が長くコストをより要するものの、ロシア産の価格が相対的に安価となっている分で輸送コストをカバーしている。なお、ブラジルは従来、地理的に近くメルコスール加盟国として貿易の特恵条件があるアルゼンチンから小麦を輸入していたが、アルゼンチンの生産量減少を受け、2023 年 7 月から 12 月までは安価なロシア産の輸入量がアルゼンチン産を上回った。1 月以降は、アルゼンチン産の新穀の輸出が本格化し、ブラジル市場での競合が激化すると見られる。また、メキシコへの輸出は 2022/23 年度は 60 万トンであったが、2023/24 年度は最初の 5 か月で 40 万トンに達し、ロシア産が米国の市場であったメキシコ市場で輸出量を伸ばしている。

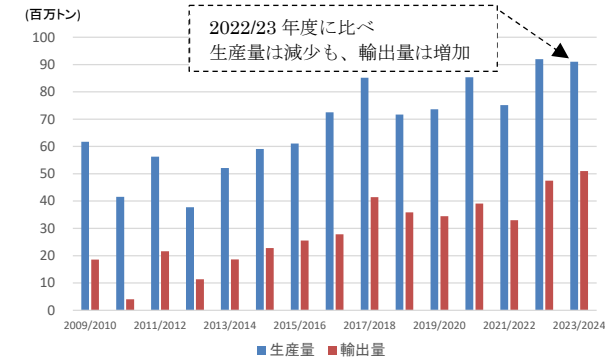
2023/24 年度のうち 2023 年 7 月～12 月のロシアの輸出量は 2,682.6 万トンと、過去最高の輸出量であった 2022/23 年度の同期間(2,384.3 万トン)を 25.2 %上回った。一方、12 月は 382.3 万トンと過去 3 年平均(388.3 万トン)を 1.5%下回った。なお、12 月の輸出先国は、トルコ(15.5%)、バングラデシュ(10.7%)、パキスタン(10.6%)の順。現地情報会社によれば、輸出経路では、今年度は EU 向けとみられるバルト海経由の穀物輸出が伸びており、前年度同期に比べバルト海経由は 2.6 倍の輸出量となった。

小麦ーロシア (主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)
(単位:百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年7月～24年6月)			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	75.2	92.0	91.0 (90.0)	1.0	▲ 1.1	
消 費 量	41.8	42.3	43.0 (43.6)	-	1.8	
うち飼料用	18.5	19.0	20.0 (19.0)	-	5.3	
輸 出 量	33.0	47.5	51.0 (50.1)	1.0	7.4	
輸 入 量	0.3	0.3	0.3 (0.1)	-	-	
期末在庫量	12.1	14.6	11.9 (11.4)	-	▲ 18.4	
期末在庫率	16.2%	16.3%	12.7% (12.2%)	▲ 0.1	▲ 3.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	27.63	29.00	28.80 (29.00)	▲ 0.20	▲ 0.7	
単収(t/ha)	2.72	3.17	3.16 (3.10)	0.06	▲ 0.3	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2024)
IGC 「Grain Market Report」(16 November 2023)

図: ロシアの小麦の生産量と輸出量の推移



資料: USDA 「PS&D」(2024. 1. 12)をもとに農林水産省で作成

図: ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2023年12月)			2023/24年度 (2023年7月～2023年12月)			2022/23年度 (2022年7月～2023年6月)			2021/22年度 (2021年7月～2022年6月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
トルコ	59.3	15.5	トルコ	385.5	14.4	トルコ	836.8	17.4	トルコ	669.7	20.5
バングラデシュ	40.9	10.7	エジプト	284.7	10.6	トルコ	682.1	14.2	イラン	626.6	19.2
パキスタン	40.6	10.6	バングラデシュ	168.5	6.3	バングラデシュ	199.2	4.1	エジプト	500.5	15.4
カザフスタン	28.0	7.3	アルジェリア	135.8	5.1	パキスタン	155.2	3.2	サウジアラビア	97.3	3.0
インドネシア	25.9	6.8	パキスタン	89.4	3.3	イラン	149.6	3.1	ナイジェリア	73.5	2.3
エジプト	25.7	6.7	インドネシア	87.6	3.3	アゼルバイジャン	136.9	2.8	スーダン	71.2	2.2
アルジェリア	12.2	3.2	イラン	79.6	3.0	カザフスタン	125.5	2.6	アゼルバイジャン	69.7	2.1
その他	149.7	39.2	その他	1,451.5	54.1	その他	2,521.5	52.5	その他	2,521.5	77.3
計	382.3	100.0	計	2,682.6	100.0	計	4,806.8	100.0	計	3,260.2	100.0

＜ウクライナ＞ 2023/24 年度の輸出量は前月予測から 1.5 百万トン上方修正

【生育・生産状況】USDAによれば、2023/24年度の生産量(クリミア地域分を含む)は、収穫時の単収が良好であったことから、前月予測から0.9百万トン上方修正され23.4百万トンの見込み。前年度に比べ、収穫面積の減少も、良好な天候による単収の上昇を受け、前年度(21.5百万トン)を8.8%上回るものの、5年平均(26.8百万トン)に比べ12.8%下回る。なお、ウクライナ農業政策食料省によれば、収穫量は1月11日現在で22.5百万トンと、前年度同期(20.2百万トン)を11.4%上回る。

2024/25年度の冬小麦の11月27日現在の播種面積は、4.16百万ヘクタールと前年度同期(3.64百万ヘクタール)を14.3%上回り、作付け進捗率は95.6%となった。なお、ロシアのウクライナ侵攻前の2021年11月15日現在の播種面積は、6.25百万ヘクタール。生育状況は、8月下旬から降雨不足となり、9月に干ばつ状態が深刻化し出芽が遅れた。10月下旬から南部の一部を除き降雨に恵まれ生長が活発化し、11月中旬に気温の低下により生長が停止した。12月は降雨もあり良好な天候となった。ウクライナ全体の冬穀物の12月初旬の作柄評価は、「良好」が50%、「並み」が34%、「不良」が16%となった。

【貿易状況・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、EU向けの輸出が堅調なことから、前月予測から1.5百万トン上方修正され14.0百万トンとなるものの、前年度に比べ18.2%減少、5年平均(18.0百万トン)に比べ22.1%減少の見込み。前年度比での減少は、黒海のオデーサ港等の主要輸出港からのアフリカ及びアジア向け輸出が黒海穀物イニシアティブの履行停止の影響を受けたためである。その後、ウクライナによる人道回廊(臨時回廊)の設置で輸出は増加している。

また、ウクライナ政府等によれば、2023/24年度のうち7月から12月までの輸出量は762.7万トンで、輸出先国はスペイン(33.9%)、ルーマニア(13.0%)、エジプト(8.0%)の順。この間、EU向けの輸出は前年度同期比で29%の増加となった。特にスペインは生産量の減少と飼料用小麦の需要増からウクライナ産小麦の主要輸入国である。また、ウクライナとEUとの間で2022年6月に締結された「自動車道による貨物輸送の自由化」やルーマニアのコンスタンツァ港への輸送を促進するドナウ川河川港の能力拡大、鉄道の軌道幅の統合等がEUへの輸出に寄与した。加えて、2023/24年度のウクライナ生産量に占める飼料用グレードの割合が増加したこともその要因である。2023年12月の輸出量は、171.5万トンと前年度同期比4.3%増加。黒海イニシアティブの履行停止後に減少した輸出量は、臨時回廊の利用等で回復し7月以降で最大となった。輸出先国は、スペイン(41.8%)、インドネシア(12.4%)、パキスタン(8.4%)の順。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）
(単位:百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年7月～24年6月)			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	33.0	21.5	23.4 (28.7)	0.9	8.8	
消 費 量	9.0	7.7	8.6 (13.9)	▲ 0.2	11.7	
うち飼料用	3.0	2.7	4.0 (3.0)	▲ 0.2	48.1	
輸 出 量	18.8	17.1	14.0 (13.0)	1.5	▲ 18.2	
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	33.3	
期末在庫量	6.8	3.5	4.4 (4.8)	1.8	25.1	
期末在庫率	24.3%	14.1%	19.4% (17.7%)	7.3	5.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.41	5.60	5.05 (6.32)	0.05	▲ 9.8	
単収(t/ha)	4.45	3.84	4.63 (4.54)	0.13	20.6	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2024)
IGC 「Grain Market Report」(16 November 2023)

図 ウクライナ産小麦の生産量、輸出量、期末在庫量の推移

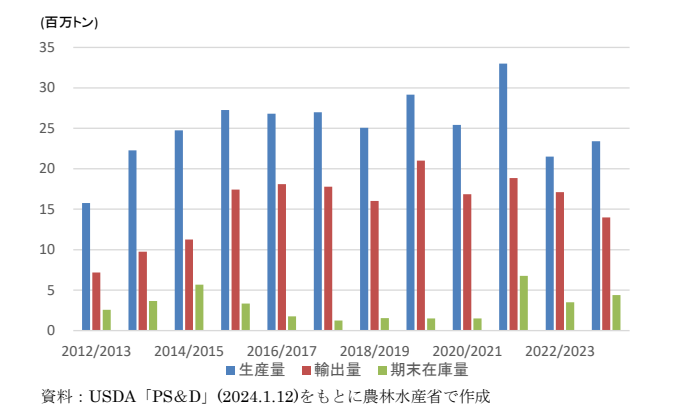


写真 2024/25 年度の冬小麦の圃場(2023. 12. 2)



冬小麦の越冬状態は正常である。今後スノーカバーの形成や気温や降雨量等の天候状況に留意が必要である。
(ドニプロペトロウスク州)

(参考1)黒海穀物イニシアティブ履行停止後の輸出状況

黒海穀物イニシアティブの履行停止により、その後の主要輸出ルートは、①鉄道、トラック等でウクライナのイズマイル港等に向かった後、はしけ等でドナウ川を経由し、ルーマニアの黒海港湾(コンスタンツァ港他)から「臨時回廊」を経由するルート、または、ウクライナの黒海港湾(オデーサ港他)から直接「臨時回廊」を経由する港湾ルート、②ポーランド等の欧州諸国を通過する陸路ルートの2つとなっている。

ウクライナ政府及び現地調査会社のデータによれば、これらの輸出ルートの主な手段別の小麦月平均輸出量は、港湾経由が、黒海穀物イニシアティブ履行期間中(2022年8月～2023年7月)では121.4万トンであり、同履行停止後(2023年8月～12月)では、113.7万トンに減少しているものの、6.3%の減少に留まっている。

鉄道は、黒海穀物イニシアティブ履行期間(2022年8月～2023年7月)で14.5万トンであったが、同履行停止後(2023年8月～12月)では17.4万トンと、20.5%増加。自動車は、黒海穀物イニシアティブ履行期間(2022年8月～2023年7月)では7.3万トンであったが、同履行停止後(2023年8月～11月)は2.7万トンと、63.4%減少した。

この結果、ウクライナ産小麦の月平均輸出量を黒海穀物イニシアティブ履行期間と履行停止後の期間で比較すると、同履行期間(2022年8月～2023年7月)の144.0万トンに対し、同履行停止後(2023年8月～12月)は、海上輸送能力の制限により、136.3万トンに減少しているものの、5.3%の減少に留まっている。

また、黒海穀物イニシアティブ履行停止後の月間輸出量に占める手段別輸出量割合を8月と12月で比較すると、港湾経由はドナウ川利用を含め黒海の臨時回廊での輸送が増加し、80.6%から93.8%に増加した。一方、鉄道、自動車ともに10月から12月にかけて減少し、鉄道は14.6%から4.6%に、自動車も3.9%から0.4%に低下した。

この背景には、港湾経由の輸送コストが陸上輸送より比較的安価なことや、ウクライナの銀行、英国の保険会社が参加する黒海回廊向け船舶保険メカニズムの始動による海上保険料コストの低下がある。加えて、ウクライナ産穀物の東欧5か国への過剰流入問題によるポーランド、ハンガリー等の独自規制の継続や、ポーランド等の運転手などのウクライナとの国境での道路封鎖の影響も一部あるとみられる。さらに、東南アジア向け輸出に関しては、中東情勢の影響に注視が必要である。

USDAによれば、黒海穀物イニシアティブ経由の輸出の停止から、期末在庫量は増加するとみられている。2023/24年度の期末在庫量は、前月予測より1.8百万トン上方修正され4.4百万トンと、前年度比25.1%の増加。

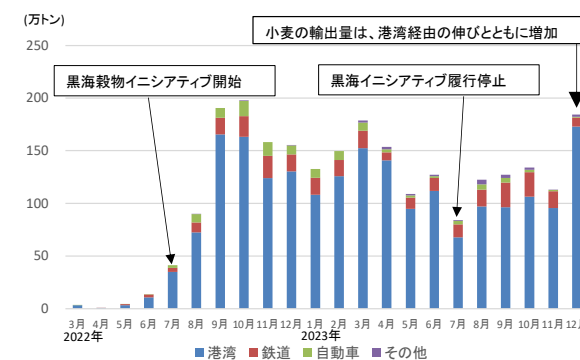
小麦の国際価格は、ロシアによるウクライナ侵攻を受けシカゴ相場は2022年3月7日に210.4ドル/トンと史上最高を記録。その後、臨時回廊による輸出等を受け、落ち着いた動きとなっている。

図 黒海穀物イニシアティブルートとその履行停止後のウクライナ産穀物の輸出ルート



出所：国連の地図に、ガーディアン紙(2023年8月9日付)を参考に調査会社が作成。

図 ウクライナ産小麦の輸送手段別輸出量の推移



資料：ウクライナ農業政策食料省及びインフラ省、現地情報会社のデータをもとに、農林水産省で作成

(参考2)東欧諸国へのウクライナ産農産物の過剰流入問題と輸入規制の状況

ウクライナ産農産物の東欧諸国への過剰流入問題に関し、2023年4月28日に欧州委員会は、5月2日から6月5日までの間、ポーランド、スロバキア、ハンガリー、ブルガリア、ルーマニアでのトランジットを除くウクライナ産の小麦、とうもろこし、菜種、ひまわり種子の輸入禁止を決定。輸入禁止措置は9月15日までに段階的に廃止されるよう取り決められた。9月15日に、EU委員会は輸入禁止の解除を決定したものの、ポーランド、ハンガリー及びスロバキアは、ウクライナ産穀物のトランジットを認めながらも、独自規制を継続。11月にはポーランドのウクライナ国境検問所に続く道路で、EUとウクライナ間の国際貨物輸送の自由化合意撤廃と輸出許可制の復活等を求めるための運送業者による道路封鎖が生じた。2024年1月15日には、ポーランド、スロバキア、ハンガリー、ブルガリア、ルーマニアの5か国の農業大臣が欧州委員会に対して書簡を送り、ウクライナ産穀物への輸入関税導入を求めた。

【輸入禁止解除】

【ルーマニア】

9月15日、独自の輸入禁止措置は導入しない方針とした。ライセンス制導入に合意しており、飼料需要等に用途が限定されている。

2024年3月までにコンスタンツァ港にウクライナ産農産物のバース（船舶が着岸する場所）を追加建設する計画が進行中と発表。

【ブルガリア】

9月14日、国民議会の投票により、ウクライナからの小麦、トウモロコシ、菜種、ヒマワリの種の輸入禁止を解除する決議が可決。

しかし、ブルガリアの農民による抗議があり、9月29日にはウクライナからのひまわりの種の輸入を11月末まで禁止することを発表。11月30日には、ウクライナからのヒマワリの種、菜種、とうもろこし、小麦の輸入に関するライセンス制度の適用について合意され、12月からウクライナ産穀物の輸入は解禁される。

【輸入禁止継続】

【ポーランド】

9月12日、ポーランドは、国内の市場を保護するため、小麦、トウモロコシ、菜種、ヒマワリの種の4つを対象に輸入禁止を決議。期間は、ポーランドとウクライナの間の農業関係が解決するまで。9月15日、とうもろこしのふすま、菜種かす等の派生製品も対象に含めることを決定。

【ハンガリー】

9月15日、穀物、菜種、ひまわりの種、小麦粉、食用油、蜂蜜、特定の肉類、卵など24品目を対象に輸入禁止を発表。期間については言及無し。10月11日、ハンガリー政府は、2023年9月15日以降ウクライナからの輸入を禁止していた24品目のうち、サトウキビとてんさい糖、およびショ糖の一部については、輸入禁止を解除した。

【スロバキア】

9月15日ポーランド、ハンガリーに続いて、小麦、トウモロコシ、菜種、ヒマワリの種の4品目を対象に年末までの穀物輸入禁止を発表。11月29日、スロバキア政府は、輸入禁止リストに、はちみつ、大麦、大豆、サトウキビ糖、ビート糖、ショ糖、大豆油のしぼりかす等を追加し、年明け以降も輸入を禁止すると発表。

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2023/24 年度

生産量 前年度比 前月比

・ブラジル等で下方修正されたものの、中国、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

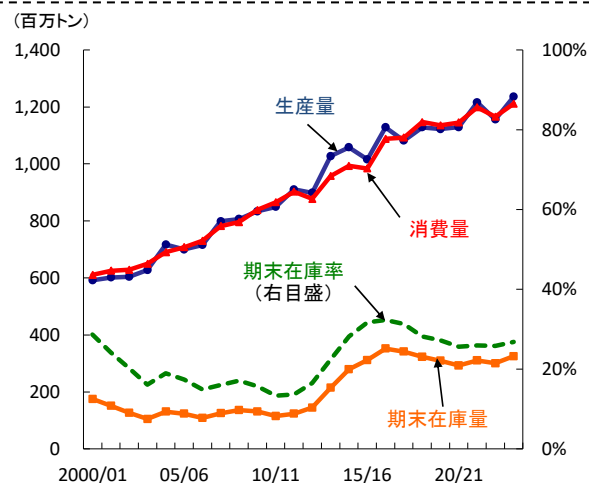
消費量 前年度比 前月比

・EU、バングラデシュ、トルコ等で下方修正されたものの、中国、米国、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

・トルコ、パラグアイ等で上方修正されたものの、ブラジル、インドで下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」（2024. 1. 12）をもとに農林水産省にて作成

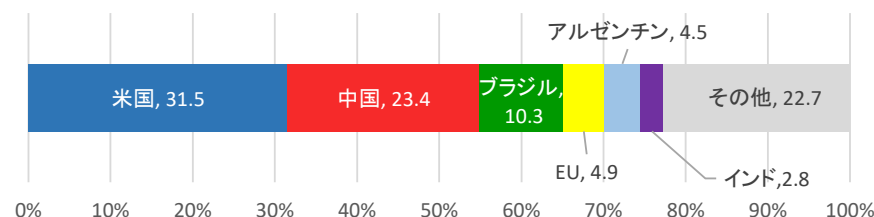
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

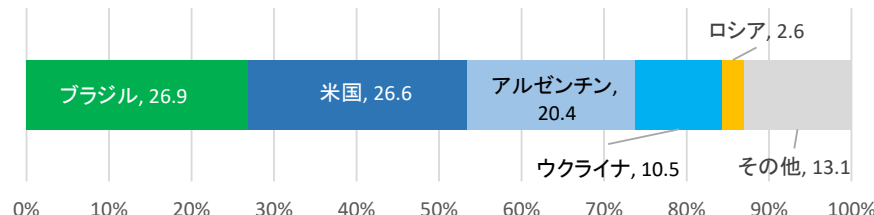
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,215.9	1,155.6	1,235.7	13.7	6.9
消費量	1,198.3	1,165.6	1,211.1	4.1	3.9
うち飼料用	743.2	728.3	763.7	2.4	4.9
輸出量	206.6	180.8	200.9	▲ 0.6	11.1
輸入量	184.5	172.2	190.8	▲ 0.8	10.8
期末在庫量	310.5	300.6	325.2	10.0	8.2
期末在庫率	25.9%	25.8%	26.9%	0.7	1.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（12 January 2024）

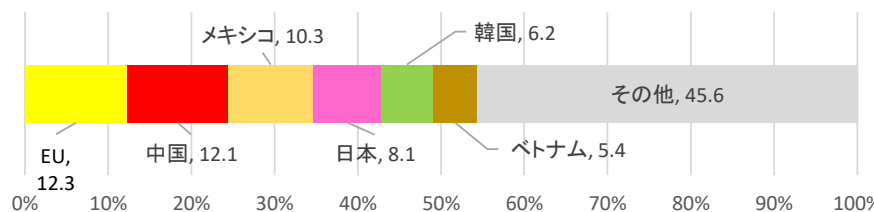
○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,235.7 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの輸出量(200.9 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの輸入量(190.8 百万トン) (単位：%)



（２）国別のとうもろこしの需給動向

＜ 米国 ＞ 収穫面積の増加により、生産量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、収穫面積の増加（対前年度比9.9%増）や単収の増加（同2.2%増）を受け、前年度より12.4%増の389.7百万トンと史上最高の見通し。収穫面積が前月予測から0.7%引下げられたものの、単収が前月から1.4%引き上げられ史上最高の11.13トン/ヘクタールとなったことから、前月予測から2.7百万トン上方修正された。収穫面積の増加については、肥料価格の高騰が前年度から落ち着いたことを受けて、とうもろこしを選択した農家が増加したことも要因とみられる。米国穀物協会によると、品質は良好としている。

【需要状況】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、飼料用、エタノール用等の需要の増加により、前年度に比べ3.5%増の316.6百万トンの見通し。前月予測から1.9百万トン上方修正されており、政府がジェット燃料（SAF）の税額控除の対象をとうもろこし由来のバイオエタノールにも広げたことも要因とみられる。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、国際的なとうもろこし価格の低下に伴う需要増加を受けた輸出の回復期待から、前年度より26.4%増の53.3百万トンの見込み。他方で、2023/24年度に輸入が増加すると見込まれる中国への輸出をめぐり、前年度が史上最高の生産見通しとなったブラジル産等との輸出競争が激化する見通し。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2024.1.12）によれば、本年1月の米国産の輸出価格は、南米産の供給増の影響を受けた米国産需要の低下を受け、1月10日現在、前月から7ドル/トン低下し205ドル/トン。なお、2023年9～12月の輸出量は1,245万トンと、前年同時期の925万トンより35%増加。輸出先国の内訳は、メキシコ（612.4万トン）、コロンビア（192.8万トン）、中国（156.5万トン）の順となっている。飼料用需要増の一方、干ばつにより減産したメキシコ向けの輸出が増加しているが、この背景としては、航行制限のあるパナマ運河を経由せず米国から直接輸出できることもあるとみられる。

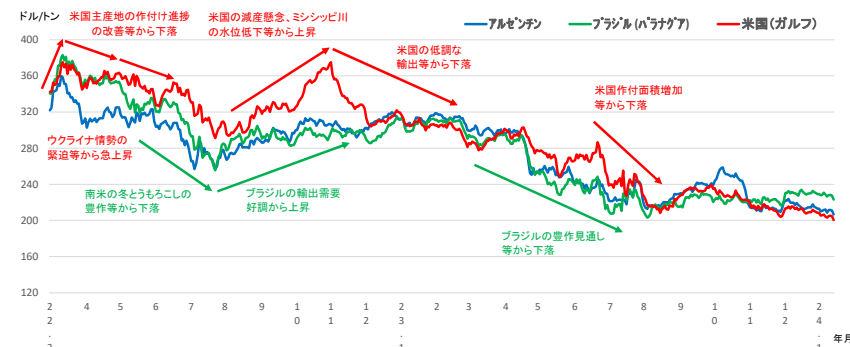
USDAによれば、2023/24年度の期末在庫量は、2023/24年の生産量が上方修正されたため前月予測から0.8百万トン上方修正され、増産により前年度より58.9%増の54.9百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より4.9ポイント上昇し14.8%と、過去3年平均（9.2%）を上回っている。

とうもろこしー米国

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年9月～24年8月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生 産 量	381.5	346.7	389.7	2.7	12.4
消 費 量	315.7	306.0	316.6	1.9	3.5
うち飼料用	144.0	139.4	144.2	0.6	3.4
エタノール用等	135.1	131.5	136.5	1.3	3.8
輸 出 量	62.8	42.2	53.3	-	26.4
輸 入 量	0.6	1.0	0.6	-	▲ 34.7
期末在庫量	35.0	34.6	54.9	0.8	58.9
期末在庫率	9.2%	9.9%	14.8%	0.1	4.9

（参考）
収穫面積(百万ha) 34.39 31.85 35.01 ▲ 0.24 9.9
単収(t/ha) 11.09 10.89 11.13 0.15 2.2
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（12 January 2024）

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成。

＜ ブラジル ＞ 2023/24 年度の生産量は大豆等への転換により減少

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、一部で作付けが開始された冬とうもろこしの作付面積が減少する見込みから前月予測から 2.0 百万トン下方修正され、前年度より 7.3%減の 127.0 百万トンの見通し。ブラジル産の市場価格（1 月 10 日時点で 228 ドル/トン）は前年同時期（286 ドル/トン）から大幅に低下しており、収益減の見込みから、冬とうもろこしの作付面積は減少するとみられる。

ブラジル食料供給公社（CONAB）の月例報告（2024.1.10）によれば、2023/24 年度のとうもろこしの生産量は、前年度比 10.9%減の 117.6 百万トンの見込み（P.25 大豆－ブラジルのクロップカレンダー参照）。とうもろこしの市場価格の低下により作付けが大豆等へシフトし、生産量の減少につながったとみられる。南部での降雨過多による夏とうもろこしの作付け遅れを受けて、前月予測から下方修正された。

USDA によれば、夏とうもろこしが主に栽培されている南部において、12 月にかけて降雨過多が続いている。一方、冬とうもろこしが主に栽培される中西部のマット・グロッソ州において 12 月下旬、高温乾燥を和らげる降雨があったものの、高温が続いている。

南部のリオ・グランデ・ド・スール州における夏とうもろこしの作付進捗率は 1 月 11 日時点で 94%と前年同時期（93%）をやや上回っている。一方、中西部のマット・グロッソ州における冬とうもろこしの作付け進捗率は 1%と、作付けが前年より早く開始された。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用及び加工用ともに需要増加等から、前年度より 3.3%増の 77.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、供給減から前月予測から 1.0 百万トン下方修正され、史上最高となった前年度より 5.3%減の 54.0 百万トンとなるものの、引き続き高水準の実産量と競争力のある安価な輸出価格から、2 年連続で世界最大の輸出国となる見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2023 年 1～12 月の輸出量は 55.9 百万トンで、前年度比 29%増。内訳は、中国（16.2 百万トン）、日本（6.0 百万トン）、ベトナム（4.7 百万トン）の順。2022 年 11 月末以降に開始された中国向けとうもろこし輸出は、大豆の輸出が一巡した 2023 年 7 月以降本格化しており、一部の港で滞船が見られたものの概ね順調に輸出されている。2023 年 12 月の中国向け輸出量は 2.0 百万トンと、前月（2.7 百万トン）より減少も堅調。

とうもろこし－ブラジル

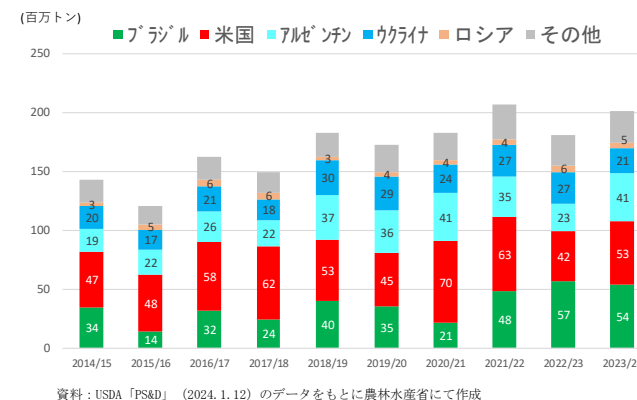
（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが約 8 割、夏とうもろこしは約 2 割）

（単位：百万トン）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (24年3月～25年2月)			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	116.0	137.0	127.0 (124.0)	▲ 2.0	▲ 7.3	
消 費 量	70.5	75.0	77.5 (80.0)	–	3.3	
うち飼料用	59.5	62.5	63.5 (54.8)	–	1.6	
輸 出 量	48.3	57.0	54.0 (50.0)	▲ 1.0	▲ 5.3	
輸 入 量	2.6	1.3	1.2 (0.5)	–	▲ 7.7	
期末在庫量	4.0	10.3	7.0 (4.8)	▲ 1.0	▲ 32.1	
期末在庫率	3.3%	7.8%	5.3% (3.7%)	▲ 0.7	▲ 2.5	

（参考）
収穫面積(百万ha) 21.80 22.40 22.40 (21.58) ▲ 0.50 –
単収(t/ha) 5.32 6.12 5.67 (5.74) 0.04 ▲ 7.4
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2024)
IGC「Grain Market Report」(16 November 2023)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移
（ブラジルが 2 年連続で世界第 1 位の輸出国となる見通し）



< アルゼンチン > 2023/24 年度の生産量は、前年度から回復する見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、高温・乾燥により生産量が激減した前年度に比べ降雨に恵まれ単収が増加することを受けて、大きく回復する見通しから、61.8%増の 55.0 百万トンで史上最高となる見込み。

一方、アルゼンチン政府によれば、1 月 11 日時点でとうもろこしの作付進捗率は 88%と、干ばつの影響を受けた前年同時期並みであるも、2021/22 年度同時期（85%）より進んでいる。

USDA によれば、12 月から 1 月上旬にかけて大部分の農業地域において降雨があり、土壌水分量は増加している。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い需給が緩和し、飼料用需要が回復することから、前年度より 20.5%増の 14.1 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、高温・乾燥により減産した前年度から生産量が大きく回復し、供給余力が出てくる見通しから、前年度より 78.3%増の 41.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2023 年 1～11 月の輸出量は 22.7 百万トンで、2022/23 年度産が減産となった影響を受け、前年度同期比（34.2 百万トン）で 34%減となった。輸出先の内訳は、ベトナム（297.7 万トン）、ペルー（267.6 万トン）、韓国（214.2 万トン）の順。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、継続している。とうもろこしと小麦の輸出に関し、国内向け穀物供給不足の回避と食料品価格の上昇を抑制するため、輸出上限数量を設定しており、2022/23 年度のとうもろこし輸出上限数量は 20 百万トン。

2023 年 12 月 10 日、新大統領に右派のミレイ氏が就任した。同 12 日、カブート経済相は通貨ペソの公式レートを現行の 1 ドル＝350 ペソから 50%以上切り下げ、1 ドル＝800 ペソとした。なお、とうもろこしの輸出税を 12%から 15%に引き上げると発表した。議会での承認手続等を今のところ経ておらず、今後の動向に注視が必要である。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (24年3月～25年2月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	49.5	34.0	55.0 (61.0)	-	61.8
消 費 量	14.2	11.7	14.1 (20.4)	-	20.5
うち飼料用	10.1	7.5	9.8 (15.5)	-	30.7
輸 出 量	34.7	23.0	41.0 (40.9)	-	78.3
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	0.01	-
期末在庫量	1.8	1.1	1.0 (4.0)	0.02	▲ 7.2
期末在庫率	3.7%	3.2%	1.9% (6.5%)	0.04	▲ 1.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.10	6.70	6.90 (8.20)	▲ 0.20	3.0
単収(t/ha)	6.97	5.07	7.97 (7.44)	0.22	57.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(12 January 2024)

IGC 「Grain Market Report」(16 November 2023)

写真：北部サンタフェ州の早植えとうもろこしの圃場風景 (2023 年 12 月 31 日撮影)



本圃場のとうもろこしの生育ステージは開花盛期から乳熟期にある。葉は濃い緑色で生育状態は良い。12 月の降雨により生育が急速に進んだ。
収穫作業は、3 月前半を予定している。

< 中国 > 単収及び収穫面積の増加を受け、生産量は史上最高

【生育・生産状況】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、中国国家统计局による収穫面積及び単収の増加見込みを受けて前月予測から11.8百万トン上方修正され、前年度より4.2%増の288.8百万トンとなり、史上最高となる見込み。

中国国家统计局「2023年糧食生産量データ」（2023.12.11）によれば、2023/24年度の実生産量は前年より4.2%増の2億8,884万トン。播種面積が前年より2.7%増加したことに加え、単収が前年より1.5%増加したことが増産の要因。なお、東北地区の一部で降雨過多の影響があったものの、他の地域では天候に恵まれた。

【需要状況】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、前月予測から2.0百万トン上方修正され、とうもろこし国際価格の低下等から、前年度より2.3%増の306.0百万トンと史上最高の見込み。背景には国内の堅調な食肉需要があり、中国国家统计局（2024.1.17）によれば、2023年の食肉生産量は9,641万トンと、前年同時期比で4.5%増。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内の飼料用需要の増加を背景として、国内価格が国際価格を上回っているほか、特に2022年末から開始されたブラジルからの輸入が増加すると予想されていることもあり、前年度より22.9%増の23.0百万トンの見込み。

農業農村部によれば、2023年1～11月の輸入量は、前年同期より12.3%増の2,219.3万トン。内訳は、ブラジル（879.5万トン）、米国（649.7万トン）、ウクライナ（539.2万トン）の順。2023年11月のブラジル産輸入量は322.1万トンと前月比で78.8%増。2022年11月以降開始されたブラジル産とうもろこしの輸入が、2022/23年度のブラジル産の豊作による安価な輸出価格を受けて大幅に増加している。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2023年11月号」によると、11月の国内価格は、新穀の豊作による供給増を受けて、2,720 元/トンと前月（2,900 元/トン）から下落した。

USDAによれば、2023/24年度の期末在庫量は、前月予測から9.8百万トン上方修正され、国内産の増産と輸入の増加により前年度より2.8%増の211.9百万トンの見込み。

とうもろこし—中国

（単位：百万トン）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24（23年10月～24年9月）			
			予測値、() はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	272.6	277.2	288.8	(280.6)	11.8	4.2
消 費 量	291.0	299.0	306.0	(305.5)	2.0	2.3
うち飼料用	209.0	218.0	225.0	(205.0)	2.0	3.2
輸 出 量	0.0	0.0	0.0	(0.1)	-	-
輸 入 量	21.9	18.7	23.0	(20.0)	-	22.9
期末在庫量	209.1	206.0	211.9	(171.0)	9.8	2.8
期末在庫率	71.9%	68.9%	69.2%	(56.0%)	2.8	0.3

（参考）

収穫面積(百万ha)	43.32	43.07	44.22	(43.30)	1.22	2.7
単収(t/ha)	6.29	6.44	6.53	(6.48)	0.09	1.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2024)
IGC「Grain Market Report」(16 November 2023)

表：中国のとうもろこし輸入量と輸入先国

（輸入量：万トン、シェア：%）

2023年11月			2023年1月～2023年11月			2022年1月～2022年11月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	322.1	89.7	ブラジル	879.5	39.6	米国	1445.2	73.1
米国	14.7	4.1	米国	649.7	29.3	ウクライナ	497.7	25.2
ブルガリア	5.8	1.6	ウクライナ	539.2	24.3	ブルガリア	14.7	0.7
南アフリカ共和国	5.6	1.6	ブルガリア	69.2	3.1	ロシア	7.8	0.4
ウクライナ	5.1	1.4	ミャンマー	33	1.5	ミャンマー	7.3	0.4
ミャンマー	3.9	1.1	ロシア	26.6	1.2	ラオス	3.2	0.2
その他	1.9	0.6	その他	22.1	1.0	その他	0.7	0.0
計	359.1	100	計	2,219.3	100	計	1,976.6	100

資料：中国農業農村部資料をもとに農林水産省で作成。

< ウクライナ > 2023/24 年度の生産量は、侵攻前の 2021/22 年度より 27.6%減

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より収穫面積が減少（前年度比 1.2%減）も、天候に恵まれ単収が上昇（前年度比 15.1%増）したことを受け、前年度より 13.0%増となったものの、侵攻前の 2021/22 年度比では 27.6%減の 30.5 百万トンとなる見通し。

ウクライナ農業政策食料省によれば、1 月 11 日現在、収穫進捗率は 90%と、前年度同期（85%）より進んでいる。単収は 1 月 11 日時点で 7.79 トン/ヘクタールと、前年度より 19%増となる見通し。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 12.2%増の 5.5 百万トンの見込み。背景には、侵攻直後の 2022/23 年度と比較し、畜産物生産が回復することによる飼料用需要の増加があるとみられる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、2023/24 年度の期首在庫の減少、黒海穀物イニシアティブの停止、主要輸出先である EU での増産による輸入需要の減少の影響を受け、前年度より 22.6%減、侵攻前の 2021/22 年度からも 22.2%減の 21.0 百万トンの見込み。

ウクライナ政府等によれば、2023 年 10～12 月の輸出量は 693.9 万トン（海上輸送、陸路等での全ての輸出が含まれる）と、臨時回廊による輸出量が増加（2023 年 7～9 月比 158.2%増）したものの、黒海穀物イニシアティブが履行されていた前年同時期比では 11%減。輸出先国は、スペイン（203.9 万トン）、中国（115.8 万トン）、エジプト（84.0 万トン）、イタリア（74.6 万トン）、オランダ（69.8 万トン）の順。

USDA によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産による供給増から前年度より 143.6%増の 6.8 百万トンの見込み。2023/24 年度の期末在庫率は、前年度から 17.0 ポイント増の 25.7%となる見込み。黒海穀物イニシアティブの履行停止後に減少した輸出量は、臨時回廊の利用等で回復しつつあるが、増産に伴い前年度より在庫は増加すると見られている。

とうもろこしーウクライナ

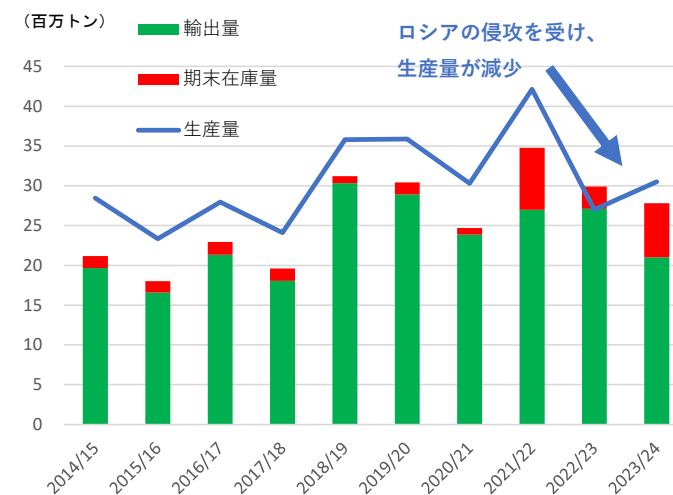
（単位：百万トン）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	42.1	27.0	30.5 (28.8)	-	13.0
消 費 量	8.2	4.9	5.5 (6.3)	-	12.2
うち飼料用	7.2	4.0	4.5 (4.5)	-	12.5
輸 出 量	27.0	27.1	21.0 (18.0)	-	▲ 22.6
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	7.8	2.8	6.8 (5.8)	-	143.6
期末在庫率	22.2%	8.7%	25.7% (24.0%)	-	17.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.49	4.05	4.00 (4.06)	-	▲ 1.2
単収(t/ha)	7.68	6.67	7.63 (7.10)	-	14.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2024)
IGC 「Grain Market Report」(16 November 2023)

図：とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移

（2023/24 年度の輸出量は、2017/18 年度以来の低水準の見通し）



資料：USDA 「PS&D」 (2024. 1. 12) をもとに農林水産省にて作成。

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

生産量

前年度比



2023/24 年度

前月比



- ・中国等で下方修正され、前月から下方修正された。ただし、史上最高の見込み。

消費量

前年度比



前月比



- ・中国等で下方修正され、前月から下方修正された。ただし、史上最高の見込み。

輸出量

前年度比



前月比



- ・インド、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量

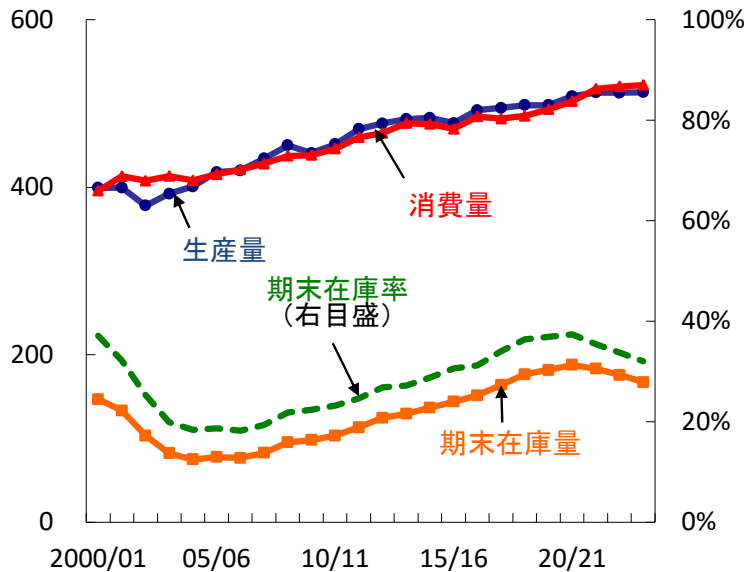
前年度比



前月比



(百万トン)



資料：USDA「PS&D」(2024. 1. 12)をもとに農林水産省にて作成

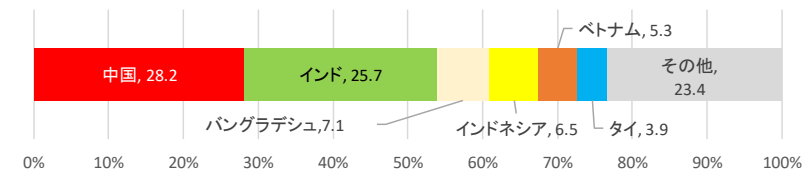
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

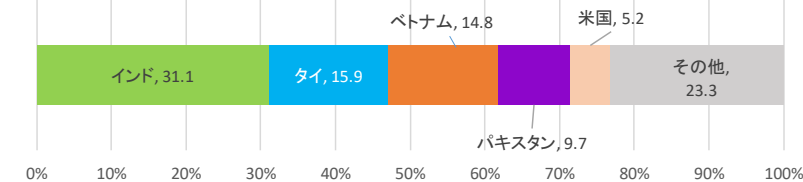
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	513.1	513.0	513.5	▲ 4.5	0.1
消 費 量	517.6	520.4	522.1	▲ 3.0	0.3
輸 出 量	56.9	54.4	51.5	▲ 0.5	▲ 5.3
輸 入 量	54.5	54.5	49.7	0.3	▲ 8.8
期末在庫量	183.3	175.8	167.3	▲ 0.5	▲ 4.9
期末在庫率	35.4%	33.8%	32.0%	0.1	▲ 1.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 January, 2024)

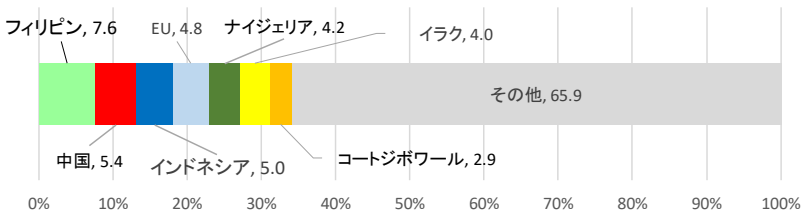
○ 2023/24年度 世界のコメの生産量(513.5百万トン) (単位：%)



○ 2023/24年度 世界のコメの輸出量(51.5百万トン) (単位：%)



○ 2023/24年度 世界のコメの輸入量(49.7百万トン) (単位：%)



（２）国別のコメの需給動向

< 米国 > 長粒種、中・短粒種の輸出価格はともに高止まり

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、USDAの穀物生産統計で、カリフォルニア州等の単収がわずかに引き下げられたため、前月予測から0.1百万トン下方修正されたものの、前年度比36.4%増の6.9百万トンの見込み。特に2年連続の干ばつに見舞われ生産量が激減していた中・短粒種の生産量が2.0百万トンと、前年度比で119.8%に大きく回復することが要因。長粒種の生産量は4.9百万トンと、前年度比で19.8%増加。コメ全体の単収（8.64もみトン／ヘクタール）は、史上最高の2021/22年度に相当する水準。

なお、国立環境情報センターによると、12月は129年の間で最も暖かい冬となった。カリフォルニア州水資源部によると、シエラネバダ山脈の降雪量は1月12日現在、平年の50%程度に留まっており、2024年の灌漑用水の不足が懸念されることから、今後も注視が必要。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産による供給量増加の見込みから、前年度比11.5%増の5.1百万トンと、史上最高の見込み。

2023/24年度の輸入量は、本年8～10月にかけてタイ等アジア諸国から食用の香米の輸入が予想以上に増加したことにより、前月予測から0.1百万トン上方修正された。今後も一定の香米の需要が見込まれることから、1.3百万トンと前年度をわずかに上回り史上最高となる見込み。

2023/24年度の輸出量は、精米の輸出減少予測がもみの輸出増加予測をわずかに上回ったため、前月予測からわずかに下方修正されたものの、国内生産量の増加と、それに伴う価格競争力の改善から、前年度比32.4%増の2.7百万トンの見込み。2023/24年度(2023年8月1日～2024年1月4日)の主な輸出先国はメキシコ（48.0万トン）、ハイチ（18.4万トン）、イラク（16.7万トン）の順。

USDA「Rice Outlook」(2024.1.17)によれば、1月9日までの週のイラク向け長粒種（2等、碎米4%混入）の価格は765ドル/トンと、昨年11月以来維持しているも、インドの輸入規制やインドネシアの減産による輸入拡大等を受け、2008年11月初旬（772ドル/トン）以来の高値となっている（P.22

の「長粒種のFOB価格の推移」を参照）。他方、地中海向けカリフォルニア米（1等、碎米4%混入）である中粒種の価格は950ドル/トンと、前月からの変更はなく、生産量の増加見込を受け2023年9月初旬の史上最高値から700ドル/トン下落し、2021年5月以来の安値となっている。

期末在庫量は、香米の輸入増による輸入量の上方修正から、前月予測より0.1百万トン上方修正され、前年度より43.8%増の1.4百万トンの見込み。

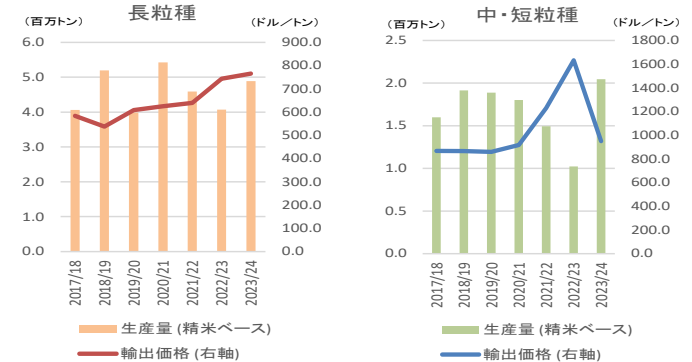
コメー米国

主に長粒種はミシシッピ川沿いで栽培、中・短粒種のシェアは1/4
米国のコメ生産に占めるカリフォルニア州のシェアは約2割

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年8月～24年7月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.1	5.1	6.9	▲ 0.1	36.4
消 費 量	4.7	4.6	5.1	-	11.5
輸 出 量	2.7	2.0	2.7	▲ 0.0	32.4
輸 入 量	1.2	1.3	1.3	0.1	4.7
期末在庫量	1.3	1.0	1.4	0.1	43.8
期末在庫率	17.1%	14.4%	17.6%	0.7	3.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.00	0.88	1.16	0.0	31.8
単収(もみt/ha)	8.64	8.28	8.57	▲ 0.1	3.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January, 2024)

図：米国の長粒種と中・短粒種の生産量・輸出価格の推移



資料：USDA「Rice Outlook」(2024.1.17)より。価格は年度内の平均価格。なお、2023/24年度は2024年1月の価格。

＜ インド ＞ ラビ米の生育が進展

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、132.0百万トンと、前年度比で2.8%減も、過去5年平均比で5.6%増の見込み。8月の極度の降雨不足を受け、インドのコメ生産量の85%を占めるカリフ米の単収減少の予想が減産の要因。単収は4.21もみトン／ヘクタールと、前年度比で1.2%減も、過去5年平均比では2.3%増の見込み。

USDA及び現地情報によると、12月初旬に南東部でサイクロンによる豪雨があったものの、インド全土は乾季に入っており、十分な日光と温暖な気候の下で乾季米が生育している。2023年10月1日から2023年12月27日の降雨量は、例年と比較して7%減少したものの、インド全体ではほぼ平年並みとなった。12月28日時点で、灌漑用の貯水量は過去10年間の平均貯水量よりも6%少なく、ラビ米への影響を注視する必要がある。コメの二期作エリアでは現在、地域によって、移植から収穫期まで、様々な生育ステージにある。

インド農業農民福祉省によると、ラビ米の作付済面積は、1月19日時点で2.83百万ヘクタール、作付け進捗率は53.8%と、前年同期(2.93百万ヘクタール、55.9%)をやや下回る。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、11月初旬に政府が、2024年1月以降の穀物配給計画を5年間延長したことから、前年度比3.0%増の118.0百万トンの見込み。政府の配給プログラムは8.13億人が対象となっており、コメ等が低所得世帯向けに無償又は低価格で配給される見込み。調達量は、52～55百万トンの見込み（インド全体の消費量の半分に相当）。

2023/24年度の輸出量は、輸出規制強化による直近の輸出量減少で、前月予測から0.5百万トン下方修正され、前年度比21.0%減の16.0百万トンの見込み。ただ依然として世界第1位の輸出国で、世界の輸出量の約31%を占める。2023年10月までの主な輸出先国はベナン(145.7万トン)、サウジアラビア(102.8万トン)、セネガル(93.1万トン)の順。なお、サウジアラビア向けはバスマティ米の輸出が主流となっている。

なお、インドは、非バスマティ米を中心に、2022年9月9日以降、様々な輸出規制を発動・強化している。詳細は右表を参照のこと。

USDA「Rice Outlook」(2024.1.17)によれば、インド産米(碎米5%混入)の価格は、輸出規制強化後のデータが提示されていない。なお、規制前の2023年7月時点の輸出価格は485ドル/トンと、アジア主要輸出国の中で最低水準の価格となっていた(P.22の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)。

2023/24年度の期末在庫量は、輸出量の下方修正から、前月予測から0.5百万トン上方修正されたものの、前年度比5.7%減の33.0百万トンの見込み。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位: 百万精米トン)						
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	129.5	135.8	132.0	(133.0)	-	▲ 2.8
消 費 量	110.5	114.5	118.0	(113.2)	-	3.0
輸 出 量	22.0	20.3	16.0	(15.8)	▲ 0.5	▲ 21.0
輸 入 量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	-	-
期末在庫量	34.0	35.0	33.0	(37.2)	0.5	▲ 5.7
期末在庫率	25.7%	26.0%	24.6%	(28.9%)	0.5	▲ 1.3
(参考)						
収穫面積(百万ha)	46.28	47.83	47.00	(47.70)	-	▲ 1.7
単収(もみt/ha)	4.20	4.26	4.21	(2.85)	-	▲ 1.2
資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(12 January, 2024) IGC「Grain Market Report」(16 November, 2023) (単収は精米t/ha)						

表:インドのコメ輸出規制(2022年9月9日～)

対象品目	措置内容	発動日
全ての種類のコメの粳 (HS 1006 10)	輸出税 (20%)	2022.9.9～
全ての種類のコメの玄米 (HS 1006 20)	輸出税 (20%)	2022.9.9～
バスマティ米・精米 (HS1006 30 20)	関税: 12,000ルピー/t (日本円で約2万円/t) 最低輸出価格導入 (1,200 ドル/トン→950ドル/トンに引き 下げ (2023.10.26～))	-
パーボイルド米・精米 (HS1006 30 10)	輸出税 (20%)	2023.8.25～ 2024.3.31
バスマティ米・パーボ イルド米以外の精米 (HS1006 30 90)	輸出禁止	2023.7.20～
碎米 (HS1006 40 00)	輸出禁止	2022.9.9～

※食料安全保障上の理由でインド政府が認める場合は、輸出を許可。
※有機米は本措置の対象外。
資料: インド政府の公示等をもとに農林水産省にて作成。

< 中国 > 2023/24 年度は播種面積が減少し、生産量が対前年比 0.9%減少

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24 年度の生産量は、中国国家统计局「2023 年糧食生産量データ」（2023.12.11）において、2023 年 7～9 月の豪雨等により東北部（特に吉林省、黒竜江省及び遼寧省）で播種面積が引き下げられたことから、前月予測から 4.4 百万トン下方修正され、前年度比 0.9%減の 144.6 百万トンの見込み。ただし、単収は史上最高の見込み。なお、東北部では、政府の大豆作付け推進政策の反動を受け、コメの作付面積が減少傾向にある。

中国国家统计局「2023 年糧食生産量データ」（2023.12.11）によれば、2023 年のコメの播種面積は 28.9 百万ヘクタールと、前年比 1.7%減少した。単収は、天候に恵まれたことも受け、7.1 トン/ヘクタールと前年比 0.8%増加した。生産量（もみベース）は 206.6 百万トンと、前年比 0.9%減少した。

なお、現地情報によると、一期作稲及び南部の二期作晩稲の収穫は 2023 年 11 月に終了した。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24 年度の消費量は、とうもろこし等飼料用作物の価格低下を受けた飼料用米の消費の減少から、前月予測より 2.0 百万トン下方修正され、前年度比 3.3%減の 149.9 百万トンの見込み。

2023/24 年度の輸入量は、国内コメ価格の下落や、史上最高の生産量となったとうもろこしの飼料用供給量の増加から、前月予測より 0.1 百万トン下方修正され、前年度比 38.4%減の 2.7 百万トンの見込み。中国は、もち米や香米に加え、特にとうもろこし等飼料用穀物の価格高騰を背景に、代替としてインド等から砕米を輸入してきたが、2022 年 9 月以降、インドの輸出禁止等により輸入量は規制前の年度（2021/22 年度、6.0 百万トン）と比較して 54.6%減少している。

中国海関統計によれば、2023 年 11 月の輸入量は 12.9 万トン（前年同月比 60.2%減）、1～11 月の輸入量は 240.0 万トン（前年同期比 59.2%減）となった。このうち、1 位がベトナム（38.2%）、2 位はミャンマー（20.3%）、3 位がタイ（15.9%）である。

一方、USDAによると、「一帯一路」政策における賛同国を拡大する目的から、同政策の関係国に対しコメの輸出促進を図っており、2023/24 年度の輸出量は、前年度比 14.9%増の 2.0 百万トンとなっている。主要輸出先には、同政策の賛同国であるエジプトやトルコが含まれている。

期末在庫量は、生産量の下方修正から前月より 0.8 百万トン下方修正され、前年度比 4.3%減の 102.0 百万トンの見込み。ただし、インドの期末在庫量（33.0 百万トン）と合計すると世界の期末在庫量の約 81%を占める。

コメー中国

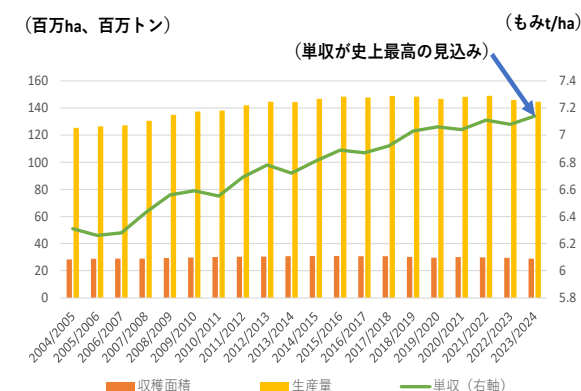
北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位：百万精米トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年7月～24年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	149.0	146.0	144.6 (148.9)	▲ 4.4	▲ 0.9
消 費 量	156.4	155.0	149.9 (150.1)	▲ 2.0	▲ 3.3
輸 出 量	2.1	1.7	2.0 (2.2)	-	14.9
輸 入 量	6.0	4.4	2.7 (3.3)	▲ 0.1	▲ 38.4
期末在庫量	113.0	106.6	102.0 (104.8)	▲ 2.5	▲ 4.3
期末在庫率	71.3%	68.0%	67.1% (68.8%)	▲ 0.8	▲ 0.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.92	29.45	28.95 (29.45)	▲ 0.90	▲ 1.7
単収(もみt/ha)	7.11	7.08	7.14 (4.96)	0.01	0.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January, 2024)
IGC「Grain Market Report」(16 November, 2023)（単収は精米t/ha）

図： 中国の生産量、収穫面積、単収の推移
(2004/05～2023/24 年度)



資料：USDA「PS&D」(2024. 1. 12)をもとに農林水産省にて作成

< タイ > 雨季米は干ばつ、乾季米は灌漑用水不足からいずれも減産見込み

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月からの変更はなく、2023年5～9月中旬の平年を下回る降雨量から、前年度比4.4%減の20.0百万トンの見込み。

現地情報によると、12月は乾期となり、米の主要産地である北部、東北部及び中部でも降雨量は僅かとなった。2023年1～12月の累計降雨量は、平年よりも6%減少した。米の主要産地である東北部の降水量は例年並みだったものの、北部では例年より5%少なく、中部では例年より20%以上減少した。

農業経済局によると、2022/23年度の雨期米の作付面積は、エルニーニョ現象による降雨の遅れ等から、2023年11月時点で9.9百万ヘクタール（前年度比1.5%減少）の見込み。収穫量は、降雨不足から2,557万もみトン（前年度比4.0%減）の見込み。また、2023/24年度の乾期米の作付面積は、降雨不足による灌漑用水不足から1.6百万ヘクタール（前年度比11%減）、収穫量は635万もみトン（前年度比12%減）の見込み。

アセアン食料安全保障情報システム(2024.1)によると、乾季米の作付け進捗率は96%で、概ね分げつ期にあり、適切な水管理から良好な生育状況。作付面積は1.3百万ヘクタールと、灌漑用水不足から前年より減少。

USDAによると、2022/23年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、タイ政府による収穫面積の増加見込み（11.07百万ヘクタールと史上最高）等を受け、2021/22年度比5.0%増の20.9百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、前月からの変更はなく、減産見込みから、前年度比5.7%減の8.2百万トンの見込み。

2022/23年度の輸出量は、2023年11月の東南アジア向け輸出が増加したことから、前月予測から0.2百万トン上方修正され、2021/22年度比13.0%増の8.7百万トン。

タイ米輸出業者協会によれば、2023年1～11月の輸出量は、前年同期比14.7%増の794.6万トンとなった。政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大しているインドネシアは、前年同期の4.7万トンから大幅増の127.4万トンと、最大の輸出先国となった。また、南アフリカが87.6万トン（前年同期69.2万トン）、検疫問題で7年間輸入を停止していたタイ産米の輸入を2022年に再開したイラクは81.5万トン（同145.9万トン）、米国は64.9万トン（同59.6万トン）を輸入した。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2024.1.12）によれば、1月9日までの週のタイ産米（長粒、2等精米）の輸出価格は、特にインドネシア及びフィリピンの需要増加から、前月から23ドル／トン上昇し、642ドル／トンとなった（P.22の「長粒種のFOB価格の推移」を参照）。2023年12月中旬以降、情勢が不安定な紅海を迂回することによる、欧州や中東向けの輸送コストの増加や輸送日数の増加が懸念されている。

期末在庫量は、2021/22年度在庫量の上方修正から前月より0.6百万トン上方修正されたものの、減産予測から前年度比16.7%減の3.2百万トンの見込み。

コメント

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位：百万精米トン)					
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (24年1月～24年12月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	19.9	20.9	20.0 (19.7)	-	▲ 4.4
消 費 量	12.5	12.5	12.5 (13.0)	-	-
輸 出 量	7.7	8.7	8.2 (8.3)	-	▲ 5.7
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-
期末在庫量	4.1	3.9	3.2 (3.3)	0.6	▲ 16.7
期末在庫率	20.5%	18.3%	15.7% (15.7%)	2.9	▲ 2.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.70	11.07	10.65 (11.00)	-	▲ 3.8
単収(もみt/ha)	2.81	2.86	2.85 (1.89)	-	▲ 0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January, 2024)
IGC「Grain Market Report」(16 November, 2023) (単収は精米t/ha)

表：タイの国別輸出量

(単位：万トン)			
国名	2022年 1～11月	2023年 1～11月	増減量
1 インドネシア	5.7	127.4	121.7
2 南アフリカ	69.2	87.6	18.4
3 イラク	145.9	81.5	-64.4
4 米国	59.6	64.9	5.3
5 中国	65.6	36.7	-28.8
6 マレーシア	13.0	36.5	23.5
7 日本	25.6	32.9	7.3
8 フィリピン	16.3	26.8	10.6
9 セネガル	22.4	24.2	1.8
10 カメルーン	15.1	19.4	4.3
計	692.5	794.6	102.1 (前年比14.7%増)

資料：タイ米輸出業者協会（2023.12）

< ベトナム > 南部メコンデルタ地域の冬春作の播種を開始

【生育・生産動向】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、単収が過去最高だった前年度の水準からわずかに減少も、収穫面積の増大により、前年度比 0.2%増の 27.0 百万トンの見込み。なお、肥料価格の高騰や高収益作物等（果物・野菜・養殖）への転換等により、生産量は史上最高となった 2014/15 年度（28.2 百万トン）を境に緩やかな低下傾向にある。

アセアン食料安全保障情報システム（2024.1）によると、①北部は、とうもろこし等の乾季作物の播種が行われているため、冬春作（乾季米）の作付けはまだ開始されていない。②南部のメコンデルタ地域の冬春作は播種期にあり、播種面積は 1.22 百万ヘクタール。2024 年第 1 四半期は、降雨の減少と高温が見込まれることから、灌漑用水不足が予想されている。

2022/23 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、2021/22 年度比 1.0%増の 26.9 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、アジア諸国等からの精米輸入需要が落ち着く見込みから、前年度比 9.5%減の 7.6 百万トンの見込み。

2022/23 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、フィリピンによる史上最高の輸入量の継続見込みや、インドネシアによる 2023 年中の追加需要見込みを受け、8.4 百万トンと前年度比 18.3%増の見込み。特にインドネシアは、エルニーニョ等によるコメの減産見込みや、燃料価格高騰による投入財費用の高騰から、国内コメ価格が上昇。価格抑制のための在庫放出に加え、低所得世帯へのコメ配給等を受け、政府が設定する最低水準以下に在庫が低下。これを補うため、2023 年 1~12 月までに合計 350 万トンを買付け見込み。2023 年 1~10 月までの輸入量(209.8 万トン)のうち、ベトナム産の輸入は 94.6 万トン。

ベトナム関税総局によれば、2023 年 1~12 月の輸出量は 813.2 万トンと、前年同期（710.5 万トン）に比べ 14.4%増加した。主な輸出先国は、フィリピン（313.5 万トン）、インドネシア（116.6 万トン）、中国（91.7 万トン）、ガーナ（58.7 万トン）の順。特に、インドネシア向けが前年度比 978.0%増加。またフィリピン政府は本年 1 月末にベトナム政府と今後 5 年間のコメ供給に係る覚書を締結予定。

USDA 「Grain: World Markets and Trade」(2024.1.12)によれば、ベトナム産米(長粒種、5 %砕米混入)の 1 月 9 日までの週の価格は、新穀の流入から、前月の価格より 19 ドル／トン下落し、668 ドル／トンとなった。

期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度比 25.0%減の 1.2 百万トンの見込み。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位：百万精米トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (24年 1 月～24年12月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	26.7	26.9	27.0 (28.0)	-	0.2
消 費 量	21.4	21.4	21.2 (21.9)	-	▲ 0.9
輸 出 量	7.1	8.4	7.6 (7.8)	-	▲ 9.5
輸 入 量	1.7	1.8	1.4 (1.5)	-	▲ 22.2
期末在庫量	2.7	1.6	1.2 (2.4)	-	▲ 25.0
期末在庫率	9.3%	5.4%	4.2% (8.2%)	-	▲ 1.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.10	7.10	7.15 (7.10)	-	0.7
単収(もみt/ha)	6.01	6.07	6.05 (3.90)	-	▲ 0.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January, 2024)
IGC 「Grain Market Report」(16 November, 2023) (単収は精米t/ha)

図：長粒種の FOB 価格の推移



資料：USDA 「Grain：World Markets and Trade」(2024.1.12)より。

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2023/24 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ブラジル等で下方修正されたものの、アルゼンチン、米国、ロシア、中国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

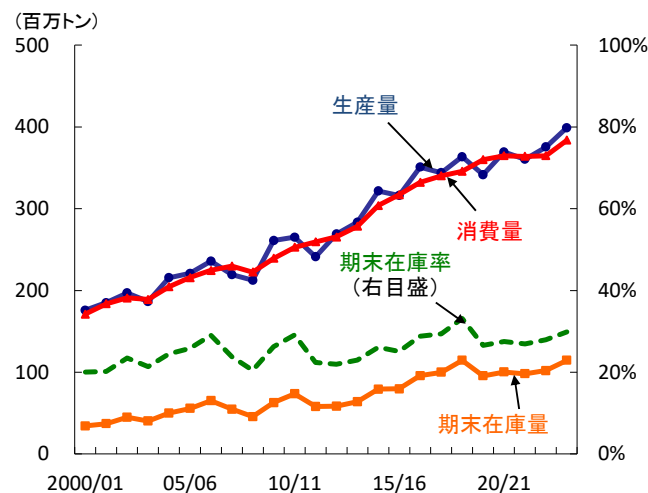
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・アルゼンチン、インド等で上方修正されたものの、ブラジル等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・ロシア、パラグアイで上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2024. 1. 12）をもとに農林水産省で作成

◎ 世界の大豆需給

(単位：百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	360.4	375.4	399.0	0.1	6.3
消費量	363.9	364.7	383.7	▲ 0.3	5.2
うち搾油用	314.5	313.9	329.4	▲ 0.1	4.9
輸出量	154.2	171.7	170.9	0.7	▲ 0.4
輸入量	155.5	164.8	168.3	0.7	2.1
期末在庫量	98.0	101.9	114.6	0.4	12.5
期末在庫率	26.9%	27.9%	29.9%	0.1	1.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 January 2024)

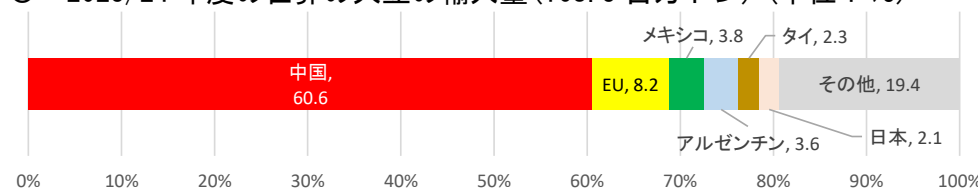
○ 2023/24 年度の世界の大豆の生産量 (399.0 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度の世界の大豆の輸出量 (170.9 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度の世界の大豆の輸入量 (168.3 百万トン) (単位：%)



（２）国別の大豆の需給動向

＜ 米国 ＞ 収穫面積の減少により、生産量は前年度より 2.5%減

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、イリノイ州等で単収が引き上げられたことから前月予測から 1.0 百万トン上方修正されたものの、収穫面積の減少を受け前年度より 2.5%減の 113.3 百万トンの見込み。大豆からとうもろこしへの作付転換により収穫面積が減少したことが背景としてあるとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測から 0.1 百万トン下方修正されたものの、バイオ燃料・飼料用需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より 4.8%増の 66.0 百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく前年度より 11.9%減の 47.8 百万トンの見込み。史上最高の豊作見通しとなったブラジル産と比べ相対的な価格競争力が落ちていることが要因とみられる。また、米国内のバイオ燃料用消費量が増加していることも背景にあるとみられる。

USDA によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、2023/24 年度の実産量が上方修正されることを受け、前月予測から 0.9 百万トン上方修正され、前年度より 6.0%増の 7.6 百万トンとなる見込み。ただし、期末在庫率は 6.7%で、引き続き低水準に留まる見通し。

USDA 「Oilseeds: World Markets and Trade」(2024.1.12) によれば、本年 1 月の米国の大豆価格は、1 月 10 日現在、南米の豊作を背景とした世界的な豊作基調を受けて、前月から 20 ドル/トン下落し 484 ドル/トン。

USDA によれば、2023 年 9～12 月の輸出量は 2,346 万トンと、前年度同時期の 2,817 万トンより 17%減。内訳は中国（1,458.6 万トン）、メキシコ（186.6 万トン）、ドイツ（105.9 万トン）の順となっている。

USDA によれば、米国政府は、温室効果ガス排出削減のため、様々な原料のバイオマス利用を奨励している。2022/23 年度における主要な植物油によるバイオマス生産量は前年度比 30.8%増の 8.7 百万トンであり、そのうち、大豆油によるバイオマス生産量は前年度比 20.2%増の 5.7 百万トンで史上最高。2022/23 年度の大豆油は増産したものの、国内のバイオマス利用に向けられ輸出量が歴史的な低水準に留まったため、今後も動向を注視する必要。

大豆－米国

(単位：百万トン)

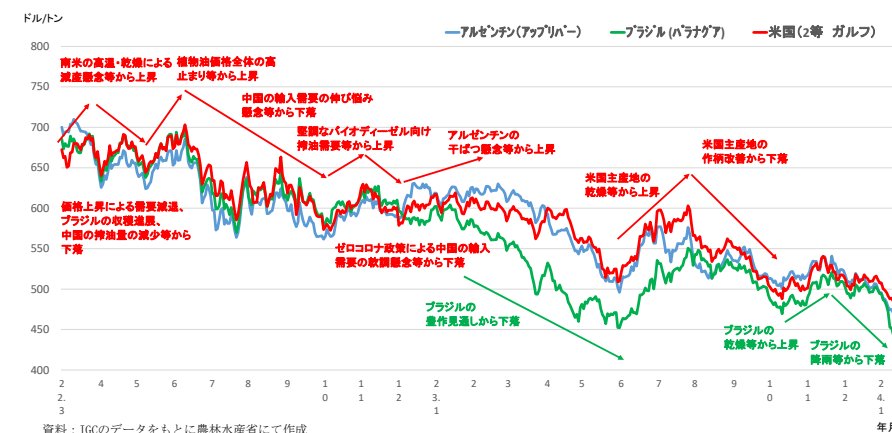
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年 9 月～24年 8 月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生 産 量	121.5	116.2	113.3	1.0	▲ 2.5
消 費 量	62.9	63.0	66.0	▲ 0.1	4.8
うち搾油用	60.0	60.2	62.6	－	4.0
輸 出 量	58.6	54.2	47.8	－	▲ 11.9
輸 入 量	0.4	0.7	0.8	－	22.4
期末在庫量	7.5	7.2	7.6	0.9	6.0
期末在庫率	6.2%	6.1%	6.7%	0.8	0.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	34.92	34.87	33.33	▲ 0.17	▲ 4.4
単収(t/ha)	3.48	3.33	3.40	0.05	2.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2024)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



＜ ブラジル ＞ 2023/24 年度の生産量 (CONAB) は前年度より 0.4%増で史上最高

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、主要生産州の中西部マット・グロッソ州等における高温乾燥を受け前月予測から 4.0 百万トン下方修正され、157.0 百万トン。作付面積が史上最高となるものの単収が減少することから、生産量は史上最高の前年度より 1.9%減も、引き続き高水準を維持している。

ブラジル食料供給公社 (CONAB) の月例報告 (2024.1.10) によれば、2023/24 年度の実産量は、前年度より 0.4%増の 155.3 百万トンと史上最高の見通し。生産量の増加は、とうもろこし等から収益性が高い大豆に作付けがシフトすることによる。中西部における降雨不足と高温、南部での降雨過多による作付け遅れを受けて、前月予測から下方修正された。作付け進捗率は 12 月末時点で 97.9%であり、マット・グロッソ州等では既に収穫が開始されている。

USDA によれば、南部において、12 月にかけて降雨過多が続いている一方、中西部のマット・グロッソ州において 12 月下旬、高温乾燥を和らげる降雨があったものの、依然として高温が続いている。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、供給減を受け前月予測から 2.2 百万トン下方修正されたものの、飼料向けの大豆粕需要が増加することから、前年度より 1.1%増の 57.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量が 2 年連続で高水準を維持し、価格競争力が高まる見込みから、前年度より 4.2%増の 99.5 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2023 年 1～12 月の輸出量は 101.9 百万トンで、前年同期 (78.7 百万トン) に比べ 29.5%増となっている。輸出先は、中国 (74.5 百万トン)、アルゼンチン (4.0 百万トン)、スペイン (2.7 百万トン) の順。堅調な中国向け輸出に加え、干ばつにより減産したアルゼンチンへの搾油用需要を満たすための輸出が大幅に増加した。

2023 年 6 月、北部のマラニョン州イタキ港と南部のサンパウロ州サントス港を結ぶ南北鉄道が開通した。南北鉄道が稼働することで、最大生産州のマット・グロッソ州等の内陸部で生産された大豆及びとうもろこしを輸出港まで効率的に輸送できるようになった。さらに、マット・グロッソ州から南部サントス港まで輸送する鉄道の拡張工事も行われており、これらのアクセス改善が輸出のボトルネックを回避する一助になることが期待されている。

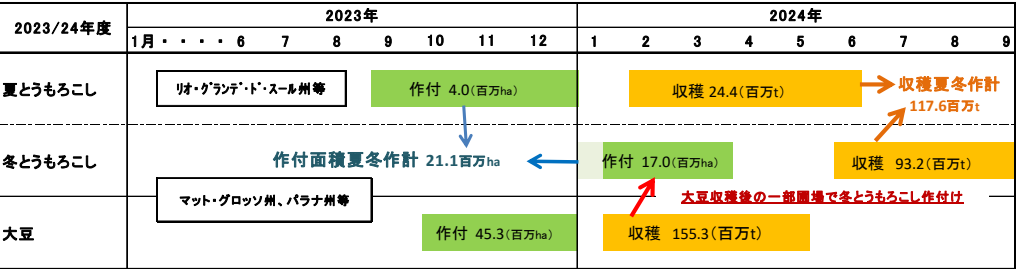
大豆ーブラジル

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	130.5	160.0	157.0 (160.0)	▲ 4.0	▲ 1.9	
消 費 量	54.0	56.9	57.5 (58.6)	▲ 2.2	1.1	
うち搾油用	50.7	53.1	53.8 (56.3)	▲ 2.0	1.2	
輸 出 量	79.1	95.5	99.5 (100.2)	-	4.2	
輸 入 量	0.5	0.2	0.5 (0.4)	-	200.0	
期末在庫量	27.6	35.4	35.8 (3.5)	▲ 1.8	1.3	
期末在庫率	20.7%	23.2%	22.8% (2.2%)	▲ 0.8	▲ 0.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	41.60	44.30	45.60 (41.49)	-	2.9	
単収(t/ha)	3.14	3.61	3.44 (3.86)	▲ 0.09	▲ 4.7	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 January 2024)
IGC「Grain Market Report」(16 November 2023)

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2023/24年度大豆の作付けは、2023年9月以降、順次開始。
2024年2月以降、大豆の収穫が行われ、その後、一部の圃場で冬とうもろこしを栽培。



資料：CONAB穀物レポート (2024.1.10)

＜ アルゼンチン ＞ 2023/24 年度の生産量は、前年度より倍増

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実生産量は、12 月から 1 月上旬の降雨を受け単収が引き上げられたことため前月予測から 2.0 百万トン上方修正され、高温・乾燥の影響を強く受けた前年度から回復する見通しから、前年度の 2 倍の 50.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン政府によれば、1 月 11 日現在、作付進捗率は 95%と、干ばつの影響を受けた前年同時期（93%）を上回っているものの、2021/22 年同時期並み。ブエノスアイレス取引所週報（2024.1.18）によれば、55%の大豆が「良～やや良」の作柄となっている。

USDA によれば、12 月から 1 月上旬にかけて、大部分の農業地域において降雨があり、土壌水分量は増加している。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、増産に伴い搾油量が回復することから、前年度比 16.9%増の 42.8 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2023/24 年度の輸入量は、パラグアイ産の輸入増を受けて前月予測から 0.4 百万トン上方修正されたものの、国内生産量の増加に伴い輸入需要が減少することから、前年度より 32.7%減の 6.1 百万トンの見込み。

2023/24 年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、干ばつにより減産し価格競争力が弱まった前年度から生産量が大きく回復する見込みから、前年度より 9.8%増の 4.6 百万トンの見込み。

なお、2023 年 1～11 月の輸出量は、前年度の干ばつによる減産を受けて 182.2 万トンで前年度（545.8 万トン）より 67%減。輸出先は、中国（160.6 万トン）、米国（7.5 万トン）、チリ（1.6 万トン）の順。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆最大 33%、大豆油及び大豆粕 31%と設定。2022 年 3 月に、大豆油及び大豆粕の輸出税について 2022 年末まで 2%引き上げたが、2023 年 1 月からは 31%に戻している。

2023 年 12 月 10 日、新大統領に右派のミレイ氏が就任した。同 12 日、カブート経済相は通貨ペソの公式レートを現行の 1 ドル＝350 ペソから 50%以上切り下げ、1 ドル＝800 ペソにした。また、大豆の輸出税は引き続き最大 33%に設定すると発表した。なお、大豆油及び大豆粕の輸出税を 31%から 33%に引き上げると発表した。議会での承認手続等を今のところ経ておらず、今後の動向について注視が必要である。

大豆－アルゼンチン

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	43.9	25.0	50.0 (44.0)	2.0	100.0	
消 費 量	46.0	36.6	42.8 (42.7)	1.0	16.9	
うち搾油用	38.8	30.3	35.5 (38.9)	1.0	17.1	
輸 出 量	2.9	4.2	4.6 (5.1)	-	9.8	
輸 入 量	3.8	9.1	6.1 (5.7)	0.4	▲ 32.7	
期末在庫量	23.9	17.2	26.0 (3.9)	1.4	50.8	
期末在庫率	48.9%	42.2%	54.8% (8.1%)	1.8	12.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	15.90	14.40	16.50 (15.87)	0.10	14.6	
単収(t/ha)	2.76	1.74	3.03 (2.77)	0.10	74.1	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (12 January 2024)
IGC 「Grain Market Report」 (16 November 2023)

写真：北部サンタフェ州の大豆の圃場風景
(2023 年 12 月 31 日撮影)



本圃場の大豆の生育ステージは開花期にある。
土壌の水分状態は良く、平年並みの穏やかな気温が記録されたことにより、全体的に作柄は極めて良好。
収穫作業は 3 月末を予定している。

＜ 中国 ＞ 2023/24 年度の生産量・消費量・輸入量は史上最高

【生産・生育状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、中国統計局による収穫面積及び単収の増加見込みを受けて前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、前年度より 2.8%増の 20.8 百万トンで史上最高の見込み。

中国統計局「2023 年糧食生産量データ」（2023.12.11）によれば、2023 年の生産量は前年より 2.8%増の 2,084 万トン。播種面積が前年より 2.2%増加し、単収も前年より 0.5%増加したことが要因。

中国政府は、2023 年、大豆生産の安定化に向け、大豆生産者への補助金の増額、大豆及びとうもろこしの複合栽培の促進、新規農業者への栽培指導等の政策パッケージを導入。なお、東北地区の一部で降雨過多の影響を受けたが、他の地域で天候に恵まれた。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、旺盛な食料需要に加え、国内の畜産物需要から大豆粕需要が増加することから、前年度より 3.4%増の 120.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、ブラジルからの輸入増により前年度より 1.1%増の 102.0 百万トンと史上最高の見込み。

農業農村部によれば、2023 年 1～11 月の輸入量は、前年同時期より 7.4%増の 9,190.1 万トン。内訳は、ブラジル（6,498.0 万トン）、米国（2,263.0 万トン）、アルゼンチン（160.3 万トン）の順となっている。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2023 年 11 月号」によれば、11 月の輸入価格（山東省の輸入大豆価格）は、前月（4,960 元/トン）から下落し、4,880 元/トンとなった。11 月の国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は、前月（5,720 元/トン）からわずかに下落し、5,700 元/トンとなった。

USDA によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、増産による供給増を受けて前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、前年度より 6.6%増の 36.0 百万トンと史上最高の見込み。2023/24 年度の期末在庫率は、前月予測から 0.3 ポイント上方修正され、前年度より 0.9 ポイント増の 29.9%となる見込み。

大豆－中国

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	16.4	20.3	20.8 (20.9)	0.3		2.8
消 費 量	108.4	116.5	120.5 (121.0)	-		3.4
うち搾油用	87.9	95.0	98.0 (100.5)	-		3.2
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-		11.1
輸 入 量	90.5	100.9	102.0 (102.6)	-		1.1
期末在庫量	29.3	33.8	36.0 (41.2)	0.3		6.6
期末在庫率	27.0%	29.0%	29.9% (34.0%)	0.3		0.9

(参考)						
収穫面積(百万ha)	8.42	10.24	10.47 (8.40)		0.02	2.2
単収(t/ha)	1.95	1.98	1.99 (1.95)		0.03	0.5
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(12 January 2024) IGC「Grain Market Report」(16 November 2023)						

表：中国の大豆輸入量と輸入先国

2023年11月			2023年 1月～2023年11月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	528.9	66.8	ブラジル	6,498.0	70.7
米国	229.5	29.0	米国	2,263.0	24.6
カナダ	14.4	1.8	アルゼンチン	160.3	1.7
ロシア	8.2	1.0	ロシア	119	1.3
アルゼンチン	5.4	0.7	カナダ	109.5	1.2
南アフリカ	3.9	0.5	エチオピア	11.1	0.1
その他	1.7	0.2	その他	29.2	0.3
計	792.0	100	計	9,190.1	100

資料：中国農業農村部資料をもとに農林水産省で作成

< カナダ > 収穫面積増により、2023/24 年度の生産量は前年度から 6.7%増

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省（AAFC）「Outlook for Principal Field Crops」（2024.1.22）によれば、2023/24 年度の実生産量は、前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、前年度から 6.7%増、過去 5 年平均からも 6.8%増の 7.0 百万トンの見込み。単収が 3.09 トン/ヘクタールと、前年度並みの高水準となり、収穫面積が 2.26 百万ヘクタールと前年度より 6.6%増と大幅に増加することによる。

カナダ統計局「Production of principal field crops, November 2023」（2023.12.4）によれば、収穫が終了した 2023/24 年産について、カナダ東部では、温暖な気候と良好な水分状況により作柄は良好であった。

AAFC によれば、この春に作付けされる 2024/25 年度の実生産量は、収穫面積が前年より増加するものの、単収が前年より減少し、堅調な大豆粕需要と輸出から、前年度並みの 7.0 百万トンの見通し。大豆価格は前年より低下するものの、とうもろこし価格より高いため、農家は大豆の作付けを優先するとみられる。土壌水分は現時点で十分。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 12.2%増の 2.9 百万トンの見込み。バイオ燃料需要増による搾油の収益改善が見込まれていることによる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、増産による輸出余力の増大を受けて、前年度より 7.3%増の 4.6 百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会（Canadian Grain Commission）によれば、2023/24 年度（2023 年 8 月～2024 年 7 月）の 2023 年 8～11 月の輸出量は 171.8 万トンで、前年度（168.4 万トン）を上回っている。国別では、中国（89.5 万トン）が 50%以上のシェアを占め、次いでアルジェリア（24.9 万トン）、イラン（21.2 万トン）、スペイン（10.9 万トン）の順となっている。

なお、カナダ産大豆は、主産地がカナダ東部のため、主要な輸出ルートは、アジア向けは通常五大湖を通過してパナマ運河経由で輸出されるルートとなっており、春先まで続くとみられるパナマ運河の水位低下の影響を注視する必要がある。

AAFC によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、増産により前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、前年度から 26.3%増の 0.5 百万トンの見込み。

大豆－カナダ

（単位：百万トン）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24（23年8月～24年7月）		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.2	6.5	7.0 (7.0)	-	6.7
消 費 量	2.3	2.6	2.9 (2.4)	-	12.2
うち搾油用	1.8	1.8	1.9 (1.9)	-	6.4
輸 出 量	4.3	4.2	4.6 (4.9)	-	7.3
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.5)	-	-
期末在庫量	0.4	0.6	0.7 (0.5)	-	4.8
期末在庫率	6.5%	9.5%	9.1% (6.5%)	-	▲ 0.4

（参考）

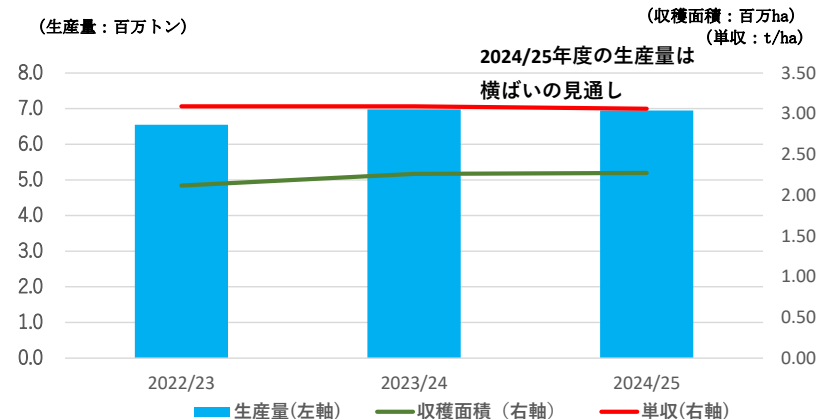
収穫面積(百万ha)	2.08	2.12	2.26 (2.26)	-	6.6
単収(t/ha)	2.99	3.09	3.09 (3.09)	-	-

資料：USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」（12 January 2024）

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」（22 January 2024）

図：カナダの直近3か年の生産量等の推移



資料：AAFC「Outlook for Principal Field Crops」（2024.1.22）をもとに農林水産省にて作成。

(参考1)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2023/24年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	23年6月～24年5月	23年9月～24年8月	23年8月～24年7月	23年9月～24年8月
カナダ	23年8月～24年7月			23年8月～24年7月
豪州	23年10月～24年9月		24年3月～25年2月	
EU	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月		
中国	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月
ロシア	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月		23年9月～24年8月
ウクライナ	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月		
ブラジル		24年3月～25年2月	24年4月～25年3月	23年10月～24年9月
アルゼンチン	23年12月～24年11月	24年3月～25年2月		23年10月～24年9月
タイ			24年1月～12月	
インド	23年4月～24年3月		23年10月～24年9月	
ベトナム			24年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
 例えば、2023/24年度は、米国の小麦では2023年6月～2024年5月、ブラジルのとうもろこしでは2024年3月～2025年2月です。
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

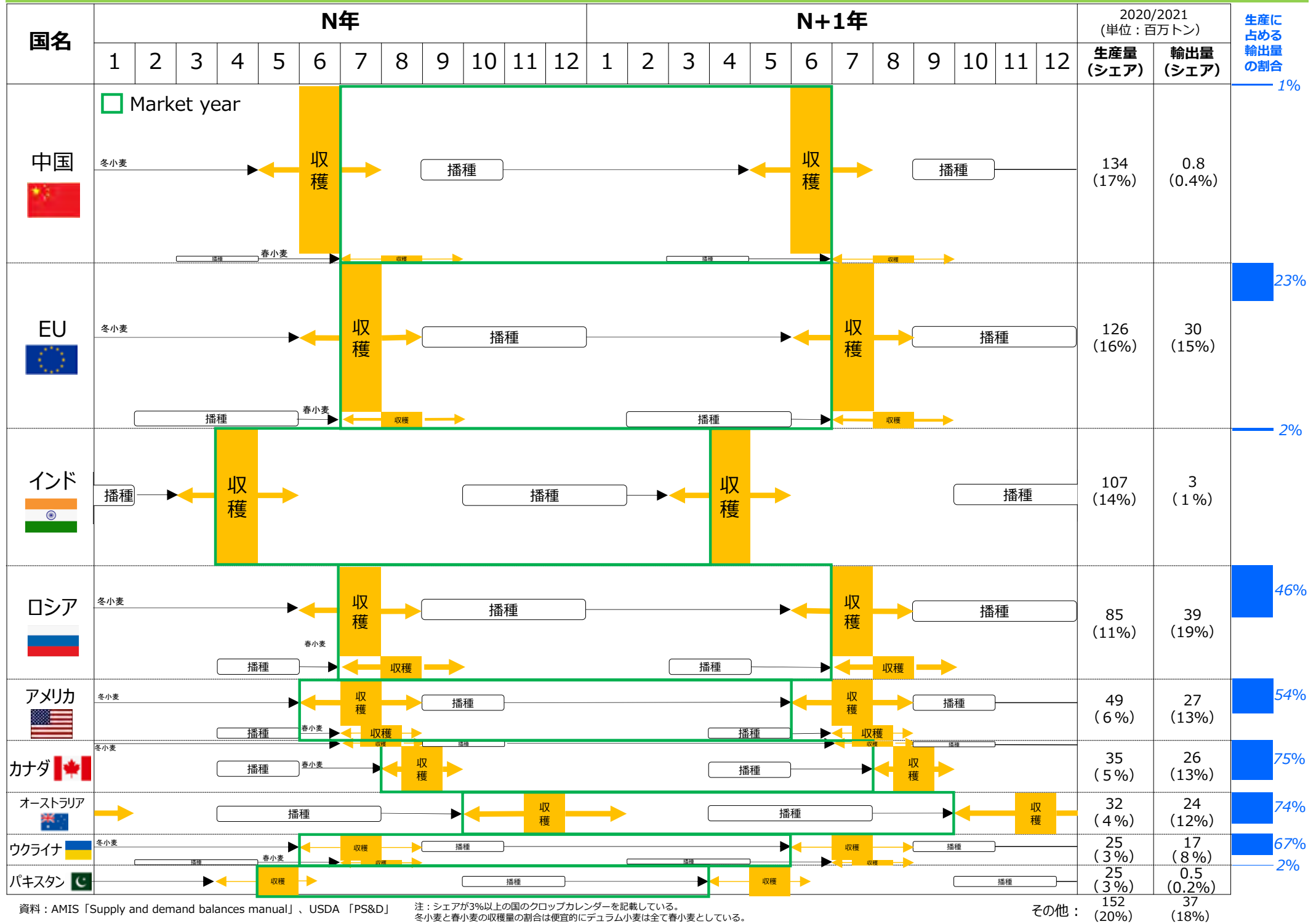
3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国
1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
1斤	500g	重量	中国
華氏→摂氏 : $^{\circ}\text{C} = (^{\circ}\text{F} - 32) \div 1.8$			

(参考3)各国のクロップカレンダー一覧(主要品目毎)

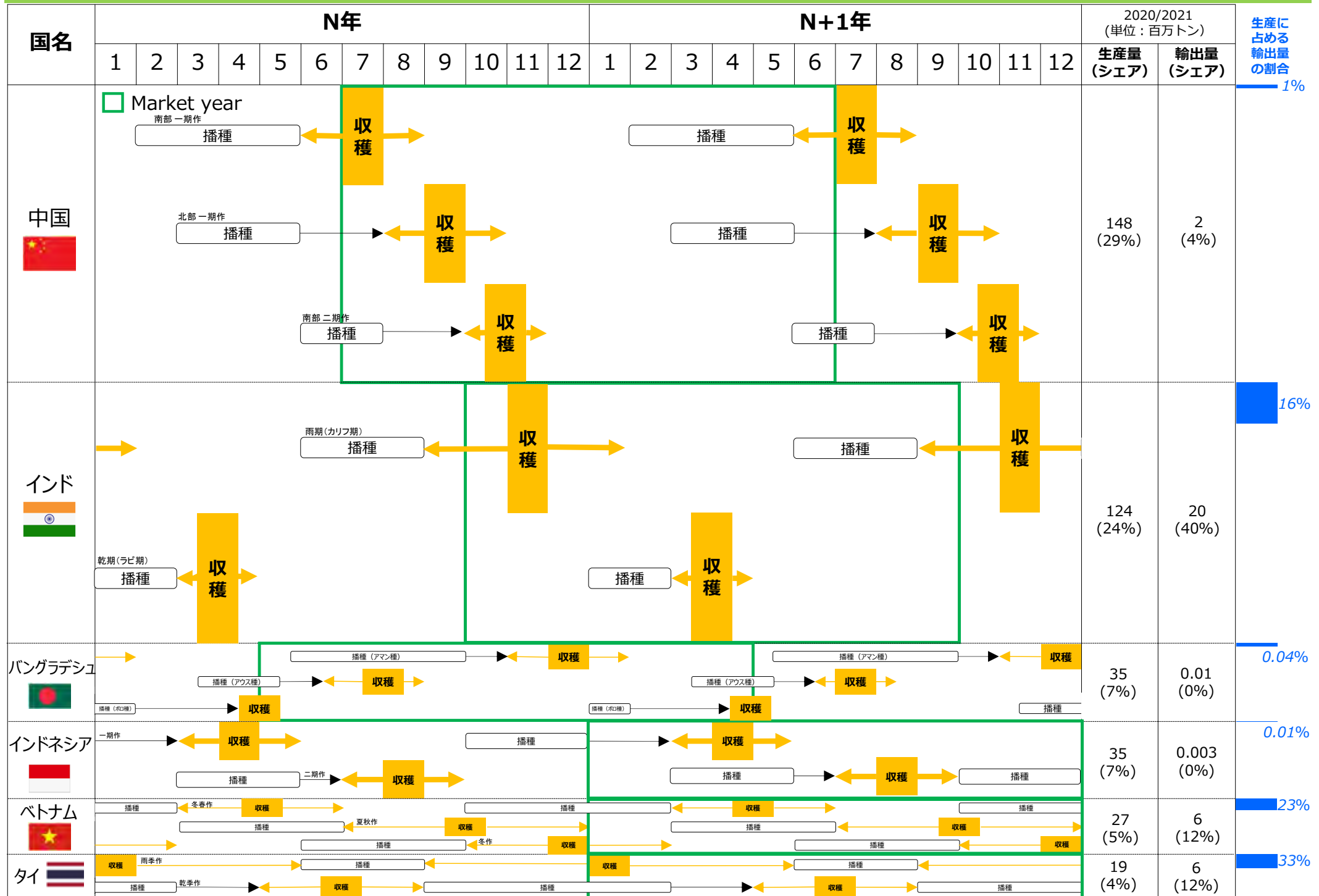
主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



主要生産国のクロップカレンダー(米)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」

注：シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。

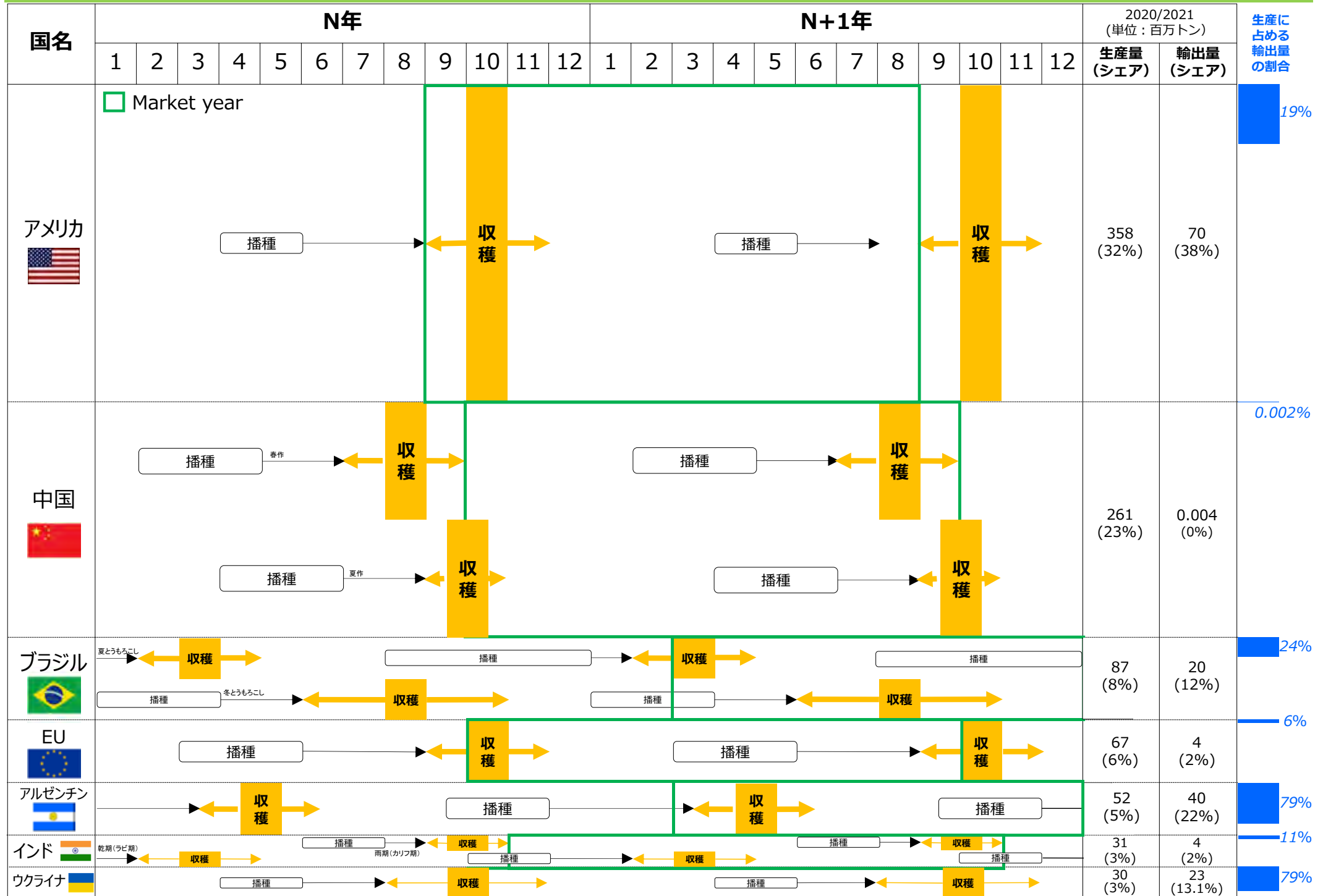
その他：

121
(24%)

16
(32%)

主要生産国のクロープカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



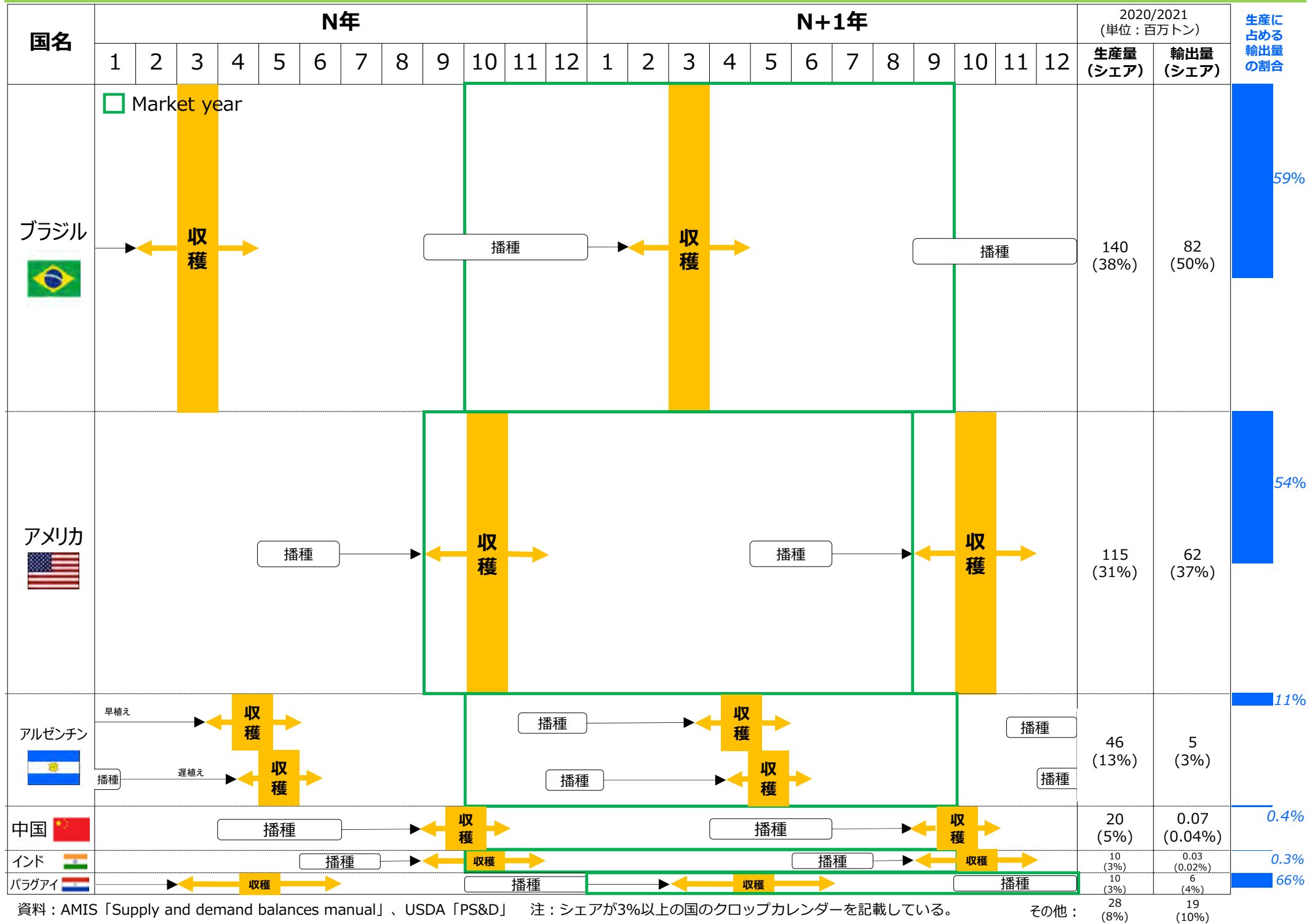
資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」

注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。

その他：242 (19%) 21 (11%)

主要生産国のクロップカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



主要生産国のクロップカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

